

活動報告書2015

雪印メグミルクグループ CSRの確立に向けて



雪印メグミルクグループ

雪印メグミルクグループ 企業理念

私たち雪印メグミルクグループは、重要なステークホルダーであるお客様・消費者そして酪農生産者の皆様の期待に応えていくこと、私たちの原点である乳(ミルク)にこだわり続けていくことが使命であると考えています。雪印メグミルクグループ企業理念には、この使命を果たすことで社会に貢献する企業であり続けるという私たちの強い思いが込められています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、
私たちの使命とコーポレートスローガンで構成します。

私たちの使命

私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、
社会に貢献する企業であり続けます。

コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

消費者重視
経営の実践

酪農生産
への貢献

乳(ミルク)に
こだわる

私たちの3つの使命

消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
 - 可能な限りの情報提供、情報開示を行なうこと
 - 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
 - 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと
- を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。

そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

乳(ミルク)にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「広げていく」ことを実現していきます。

編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとする全てのステークホルダー^{※1}に雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2014年度(2014年4月から2015年3月まで)に取り組んだ幅広いテーマについて総括するとともに(一部、2015年4月以降の取組みについてもお伝えしたい内容を掲載)雪印メグミルクグループの目指すべき方向性についても掲載しています。また、従業員の想いを「私のチャレンジ」として紹介しています。

1. わかりやすい構成・表現を心がけました

- (1) 雪印メグミルクグループはCSR^{※2}経営を掲げており、その内容をまとめて掲載しました。
- (2) 説明が必要と思われる内容については補足説明を掲載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

制作段階で企業倫理委員会と、活動報告書2014アンケートで寄せられたご意見・ご要望も反映しました。

お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件(p46)の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

※1 ステークホルダー:

企業を取り巻く利害関係者。自社の活動に関わる人、そこから影響を受ける人の全てを指します。また地域社会や行政なども含まれます。

※2 CSR: Corporate Social Responsibility

(一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。)

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解くださいますようお願いいたします。

報告対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)を対象期間としていますが、一部、2015年度の実績と将来目標についても掲載しています。

報告対象組織

本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ(雪印メグミルク(株)およびその関連会社)を対象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク(株)の取組みです。

お問い合わせ先

雪印メグミルク株式会社 CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL.03-3226-2064 FAX.03-3226-2163

参考にしたガイドライン

- GRI
「サステナビリティレポート
ングガイドライン(第3.1版)」
- 環境省
「環境報告ガイドライン(2012
年版)」
- ISO26000
(社会的責任に関する手引き)

発行時期

- 今回の発行:2015年6月
次回の発行:2016年6月予定
● 本報告書は、年次版として毎年発行します。

目次

- 01 雪印メグミルクグループ 企業理念
- 03 トップメッセージ
- 05 雪印メグミルクグループのCSR経営
- 07 特別対談

日本の酪農を豊かにすること、そして健康な生活に貢献することが、雪印メグミルクの使命です。



社外取締役 日和佐信子 企業倫理委員会委員長 江澤郁子

- 11 特集1
新しい生産設備が本格稼働～海老名工場、阿見工場～

私たちの3つの使命

- 15 特集2
酪農とともに～雪印メグミルクグループの取組み～
- 19 消費者重視経営の実践
- 23 乳(ミルク)にこだわる

活動報告

- 25 環境への取組み
- 31 働きがいのある会社の実現のために
- 33 地域・社会とのきずなを深める取組み

CSRマネジメント

- 35 コーポレート・ガバナンス
- 37 CSR推進に向けた取組み
- 38 リスクマネジメント体制
- 39 雪印メグミルクグループの概要
- 41 雪印メグミルクグループ グループ会社紹介
各社CSRリーダーからのメッセージ
- 43 補足説明
ISO26000と
雪印メグミルクグループ活動との対比 他
- 47 ステークホルダーメッセージ

トップメッセージ



代表取締役社長
西尾 啓治

「乳(ミルク)にこだわるものづくり」に徹底して 取り組むことによって、CSR経営を推進していきます

2015年4月1日に代表取締役社長に就任いたしました西尾啓治です。

2011年4月に合併新会社としてスタートした当社は、これまでの4年間、多くの皆様に支えられ、戦略設備投資による生産・物流体制の整備、成長戦略等を推進し、総合乳業会社としての基盤を構築することができました。今後は、その基盤の上に、スピード感を持って、雪印メグミルクグループを進化、発展させていくことが私の役割であると決意しております。

雪印メグミルクグループ中期経営計画(2014年度～2016年度)は、持続的成長を可能とする収益基盤の構築を目指し、「事業構造改革」、「戦略投資設備の最大活用」、「成長分野の事業拡大」、「機能強化と体制整備」の4点を柱とし、取り組んでおります。

「事業構造改革」では、プロダクトミックスの改善、生産ラインとアイテムの最適化、業務効率化によるコストダウン、そしてコストアップ対応策の早期実現を行なってまいります。

「戦略投資設備の最大活用」は、昨年度本格稼動した海老名工場と阿見工場などを最大活用し、安定した利益を確保してまいります。

「成長分野の事業拡大」については、当社の強みを活かせる成長分野へ経営資源を重点的に配分します。具体的には、継続的な成長が見込まれるヨーグルト、ナチュラルチーズ、業務用チーズと、新たな取り組みとなる機能性食品事業、海外事業を強化してまいります。

「機能強化と体制整備」では、研究開発力の強化、品質保証の強化、国内原料乳の確保、海外乳資源の安定確保のための調達体制整備などを進めてまいります。

当社グループは、「消費者重視経営の実践」、「酪農生産への貢献」、「乳(ミルク)にこだわる」という3つの使命と、「未来は、ミルクの中にある。」というコーポレートスローガンによって構成される企業理念を掲げ、企業活動を行なっております。ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

そして、この企業理念を実現するために、CSRの3つの側面である「経済側面」、「環境側面」、「社会側面」を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、ともに持続的に発展していくためのCSR経営を推進しています。

当社グループでは、3つの側面の一つである「経済側面」について、「安全で安心していただける商品を通して皆様の健康に寄与する」ことを取組みテーマとしております。具体的には、「乳(ミルク)の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力ある商品を開発する」、「グループ会社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める」ことを目指しています。

私たちの事業の中核は乳(ミルク)であり、その価値を深め、高め、広げる「ものづくり」を徹底していくことが、当社グループの使命の一つであると考えております。そして、このことが「経済側面」への取り組みの基本になるものと認識しています。

私の考える「ものづくり」とは、狭い意味での「商品開発」だけを意味しているのではなく、研究開発を起点としながらも、商品に必要な原材料・資材をタイムリーに適正な価格で確保する「調達」、安全・安心な商品を安定的に生産する「生産」と「品質保証」、商品を市場へ効率的に運ぶ「ロジスティクス」、そして、その商品の価値をお客様にお伝えしお届けする「マーケティング」という一連のバリューチェーン全体のことを指しています。

当社グループは、「乳(ミルク)にこだわるものづくり」に徹底して取り組むことによって社会に貢献してまいります。そして、この「ものづくり」を基本とした「経済側面」への取り組みを基軸に置きながら、「環境側面」と「社会側面」に対してバランスよく取り組みを進めていくことが、社会の課題やステークホルダーの要請に応えることとなり、CSR経営の実践につながっていくものと考えております。

食の安全という至上の責任のもとに、乳(ミルク)にこだわり、これまで培ってきた技術をより一層高めしていくこと、そして、社会の中でミルクの価値を高め広げていくことが、社会から当社に求められている役割であると認識しております。

今後も当社グループを取り巻く環境は、厳しい状況が続くものと思われませんが、このような状況であるからこそ、企業経営のベースとなるCSR経営の推進に全役職員が真摯に、永続的に取り組んでいかなければなりません。

当社グループの企業理念の実現に向けて、社会とともに持続的に発展していく価値ある企業グループであり続けられるようCSR経営を推進してまいります。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
西尾 啓治

雪印メグミルクグループのCSR経営

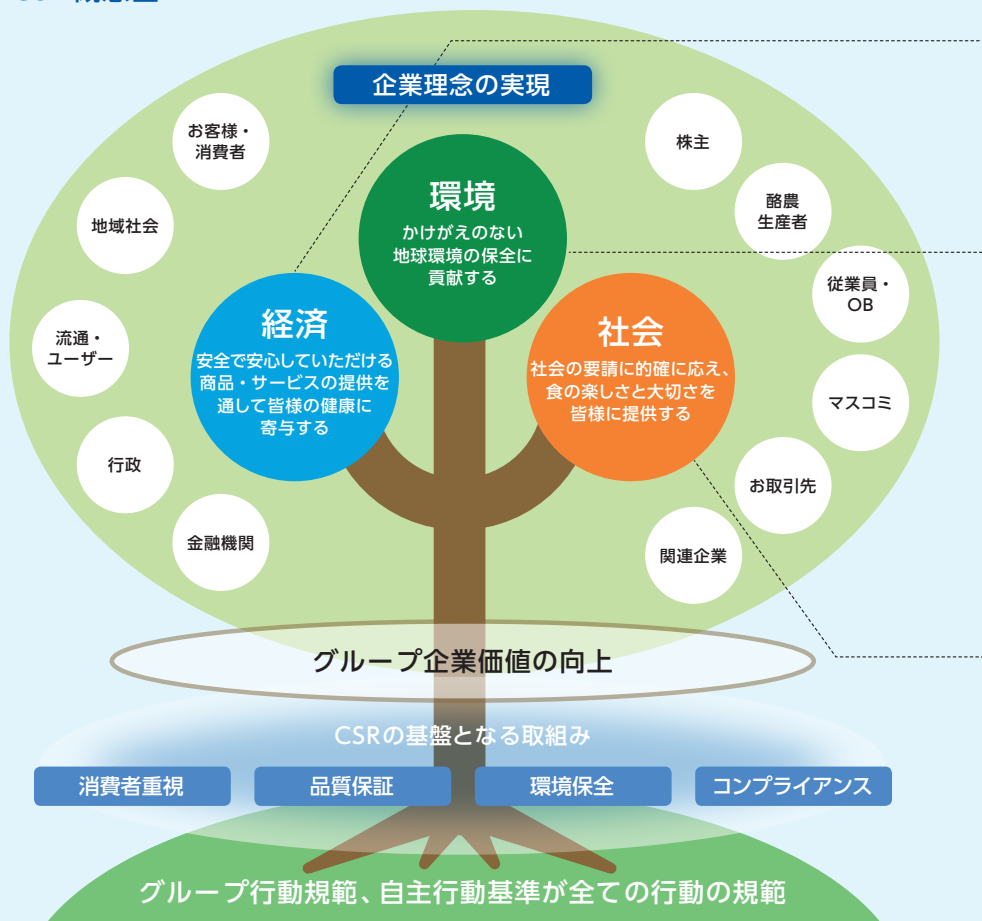
企業理念を実現するために、企業活動において、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

雪印メグミルクグループ CSR方針

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保(品質保証)の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外の目」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

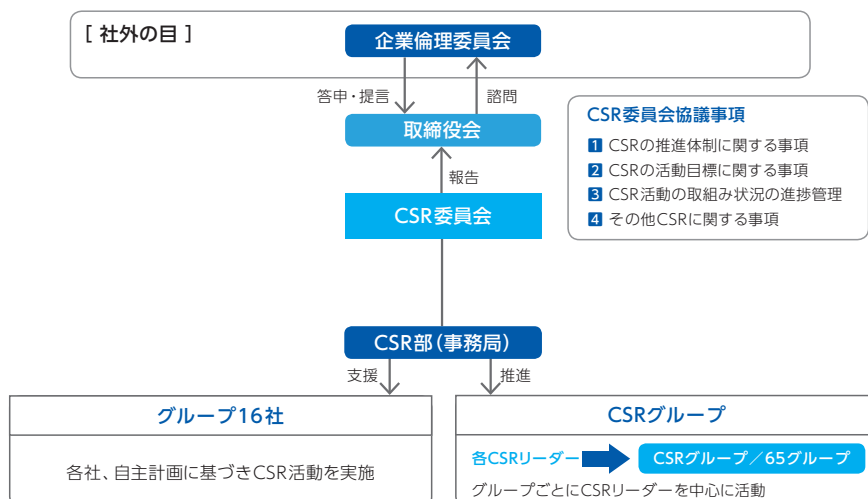
雪印メグミルクグループ CSR概念図



CSR委員会

雪印メグミルクグループではCSRを推進していく経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、全常勤取締役ならびにCSR部長を委員とし、原則年2回委員会を開催しています。委員会では雪印メグミルクグループが取り組んでいるCSR活動の進捗確認・総括と次年度の活動目標および活動方針を定めています。

CSR推進体制図



3つの側面に則した取組みテーマ

経済 経済側面	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主なステークホルダー</th><th>取組みテーマ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>お客様・消費者、お取引先、株主</td><td> 安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する 1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。 2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。 </td></tr> </tbody> </table>	主なステークホルダー	取組みテーマ	お客様・消費者、お取引先、株主	安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する 1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。 2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。
主なステークホルダー	取組みテーマ				
お客様・消費者、お取引先、株主	安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する 1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。 2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。				
環境 環境側面	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主なステークホルダー</th><th>取組みテーマ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地球環境、地域社会</td><td> かけがえのない地球環境の保全に貢献する 1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。 2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。 </td></tr> </tbody> </table>	主なステークホルダー	取組みテーマ	地球環境、地域社会	かけがえのない地球環境の保全に貢献する 1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。 2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。
主なステークホルダー	取組みテーマ				
地球環境、地域社会	かけがえのない地球環境の保全に貢献する 1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。 2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。				
社会 社会側面	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主なステークホルダー</th><th>取組みテーマ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>お客様・消費者、酪農生産者、従業員</td><td> 社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する 1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。 2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。 3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。 </td></tr> </tbody> </table>	主なステークホルダー	取組みテーマ	お客様・消費者、酪農生産者、従業員	社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する 1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。 2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。 3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。
主なステークホルダー	取組みテーマ				
お客様・消費者、酪農生産者、従業員	社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する 1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。 2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。 3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。				

CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、CSRの確立を目的としてCSRグループ活動を実施しています。この活動は、職場または事業所を一つのグループとし、全社を65グループに分け、そのグループごとにCSRリーダーを中心に全社統一テーマでの討議やCSR活動についての情報共有を毎月行なっています。

また、「雪印メグミルク行動基準」を基本とし、コンプライアンスの徹底を目的とした活動も行なっています。



CSRグループ活動の様子

CSR経営に関する従業員アンケート

雪印メグミルクでは、従業員の意識・行動が会社の目指す方向に向かっていくか、CSR活動の取組みにより従業員のCSRマインドが醸成されてきているか、などについて、毎年モニタリングを行なっています。

アンケートの結果は従業員にフィードバックするとともに、抽出した課題については、経営が対応の方向性を検討し、施策に反映しています。また、寄せられたすべての意見を全常勤役員が読み込み、従業員の生の声に耳を傾けています。

雪印メグミルク
「CSR経営に関する従業員
アンケート」結果(抜粋)

PAGE
44

日本の酪農を豊かにすること、 そして健康な生活に貢献することが、 雪印メグミルクの使命です。

雪印乳業食中毒事件以降、社外取締役・企業倫理委員会委員長として当社グループに関わってきた日和佐信子と江澤郁子が、当社グループのCSR経営の取組みや、今後の当社グループに対する期待について対談しました。



雪印メグミルク株式会社
社外取締役 **日和佐信子**

雪印メグミルク株式会社
企業倫理委員会委員長 **江澤郁子**

はじめに

消費者が牛乳離れを起こしては困ると考え、
社外取締役を引き受けました(江澤)

企業は消費者をどのように捉えているのか
知りたいと考えました(日和佐)

日和佐 江澤さんは、日本ミルクコミュニティの社外取締役を経て、雪印メグミルクの企業倫理委員会に関わられたわけですが、きっかけはどのようなものだったのですか？

江澤 私は、栄養学、特にカルシウムおよび骨の研究・教育に関わってきました。日本人に不足しがちなカルシウムを摂取するには牛乳が一番なのです。そこで当時の雪印乳業の健康生活研究所に関わり、牛乳の重要性の啓発活動をしていました。食中毒事件が起きた後、日本ミルクコ

ミュニティの社外取締役を引き受けてくれないかという話がありました。当時、雪印乳業は業界トップの会社でしたから、消費者が牛乳離れを起こしては困ると考え、乳業会社で働く人の姿勢の大切さに触れ、少しでもお役に立ちたいと思いお受けしました。

日和佐さんは、どのような経緯で、この会社に関わるようになったのですか？

日和佐 雪印乳業の食中毒事件、雪印食品の牛肉偽装事件が立て続けに起こった後、雪印乳業の株主には、雪印乳業がもう一度立ち直ってほしいと考える方々が多くいました。そういった株主から委任を受けて、関西のNPOである株主オンブズマンが、2002年の株主総会に向けて株主提案を行ないました。その内容は、消費者代表を社外取締役として迎えること、同時に商品安全監視委員会を設立し、その

委員長を社外取締役が務めることというものでした。雪印乳業は、その株主提案を受け入れることが大事だと判断しました。そこで紆余曲折を経て、私のところに依頼が来たのです。私は当時、全国の消費者団体をまとめる全国消費者団体連絡会の事務局長をしており、消費者関連の法律を作るときには行政から相談が来るような立場でした。当時の雪印乳業には、消費者団体の代表を社外取締役にするというイメージはありませんでしたし、そもそも本気なのかとも考えました。それで、すごく悩みました。

消費者団体と企業は、いろいろな場面で対立します。消費者関連の法律を通そうとすると、企業は常に反対の立場を取ります。そういった状況の中、企業は消費者をどのような位置付けとして考えているのか、また、企業にも消費者という意識を持ってもらいたいということもあって社外取締役に引き受けることにしました。交渉に見えた岡田副社長(当時)が、信頼できると感じたことも理由の一つでした。ほとんどの消費者団体からは、「企業の味方をするのか」という強い批判を受けました。人生の中で、一大決心でした。

江澤 企業は安全で安心していただける食品を提供することで、食生活に関わっているわけですから、企業が良くなり消費者に信頼されることはきわめて大切です。当時、テレビのニュースで日和佐さんが社外取締役になるということを知り、素晴らしい決断だと思いました。

社外取締役や企業倫理委員会委員長を経験して

全員参加で行動基準を作りました。
全員が新しい雪印乳業を作ろうと
燃えていました(日和佐)

苦労を共にし、一丸となって取り組んでいました。
全員が信念を持って仕事をする事の
大切さを痛感しました(江澤)

江澤 日和佐さんは、事件直後の雪印乳業の社外取締役に就任されて、その再建の道筋を体験されてきたわけですが、特に印象に残っていることはありますか？

日和佐 今でも印象に残っているのは、会社の机の上に、黒澤酉蔵さんの書かれたエッセイをまとめた冊子が置いてあったことです。雪印乳業はこんなに素晴らしい創業者によって作られた会社だということを知ってほしいと考

えた方が置かれたのだと思います。雪印乳業に対する印象が大きく変わったのは、発祥の地、札幌から足を伸ばして北海道の全ての工場を回ったときでした。^{ほろのべ いそぶんない}幌延や磯分内などにあるのは、牧草地が湿地帯だけです。農作物が作れず、できることはほぼ酪農だけなのです。それこそ何もないようなところに、雪印の工場が唯一の産業という形でぽつんと立っていました。そして、雪印乳業が酪農家を回って牛乳を集めていたことや、獣医師がいたこと、酪農家を育てるための酪農学園を開いたこと、良い餌を作るための雪印種苗という会社を作ったことなどを知り、ただのメーカーではなく、酪農家が原点であることを知り、雪印乳業は、本当に素晴らしい企業だったのだと思いました。

最初の頃には、全員参加で行動基準を作りました。消費者団体では当たり前の手法なのですが、自分たちで作って、みんなで守っていこうという手法を提案したところ、それを守ってくれました。私が大事だと考えることは実行してくれましたし、あまり困難を感じたことはありませんでした。以前は官僚的な会社という印象だったけれど、体制が全て新しくなったことで意識も変わり、みんなが新しい雪印乳業を作ろうと燃えていました。



江澤郁子 プロフィール

2003年 1月 日本ミルクコミュニティ(株) 社外取締役就任
2009年 10月 雪印メグミルク(株) 企業倫理委員会委員
2014年 4月 同 企業倫理委員会委員長に就任

医学博士(東京大学)
日本女子大学名誉教授・理事
日本家政学会会長、文部科学省学校法人運営調査委員、
日本学術会議会員などを歴任。
学術分野では、カルシウム・骨代謝研究で、日本家政学会賞、
日本栄養食糧学会賞、日本農学賞などを受賞。
2001年紫綬褒章(動物生理・代謝学研究)受章
2009年瑞宝中綬章(教育研究功労)受章

日和佐 江澤さんも日本ミルクコミュニティの社外取締役
に就任されたときから雪印メグミルクの企業倫理委員会
に携わるまで長く経験されてこれっていますが、何か特
別な思い出はありますか？

江澤 日本ミルクコミュニティは、3つの会社が一緒にな
って創業*しましたが、経営層をはじめ全社員が雪印の教
訓を活かさなくてはならないと大変な苦労の中、一丸と
なって取り組んでいました。一人の不注意が、会社をはじ
め、社会に影響し、多くの人々の健康にも影響する。一人
ひとりが信念を持って仕事をするのがいかに大事なこ
とかと、痛切に感じました。

*日本ミルクコミュニティ株式会社は、2003年1月、農協系乳業メーカーである全
国農協直販(全国農業協同組合系)と、ジャパンミルクネット(全国酪農業協同組合
連合会系)、雪印乳業の市乳事業部門の3社を経営統合して創業。

現在の雪印メグミルクについて

感謝の気持ちを持ち仕事に励み、
幸せになってほしい(江澤)

「消費者の皆さん、それは違いますよ」
ということも言わなくてはならない(日和佐)



日和佐信子 プロフィール

2002年 6月 雪印乳業(株)
社外取締役就任 企業倫理委員会委員長
2009年 10月 雪印メグミルク(株)
社外取締役就任 企業倫理委員会委員長

元全国消費者団体連絡会 事務局長
財団法人横浜市消費者協会理事長
NPO法人 CSRフォーラム理事
内閣府 消費者委員会委員など多くの委員を歴任

日和佐 雪印乳業は2009年に日本ミルクコミュニティと
経営統合し、総合乳業メーカーとして再出発しました。こ
れは私の予想よりも早かったのですが、再建が上手くいっ
たことの表れだと思います。組織統合を進める中で、雪
印乳業が続けてきたコンプライアンスを中心としたCSR
活動を、雪印メグミルクにつなげることができたのは貴
重なことだと思います。現在も、行動基準やCSRの浸透
に向けて、月1回「CSRグループ活動」が続いています。
マンネリ化しているという声が聞こえるようになりましたが、
少しずつでも毎月きちんと積み上げていくことが大事で
すから、ぜひ続けてほしいと思います。また、企業倫理委
員会も、毎月1回開催しており、そこで議論をしたことが
きちんと取締役会に報告される仕組みになっています。
これも非常に貴重なことです。企業経営はともすれば社
内論理で進められ、社外への関心が薄くなってきます。
社会はどう見ているのか、会社の外ではどういうことが
起きているのか、社会の動きと自分の会社はどうつなが
っていけば良いのか、世の中はどんどん変わっていきま
すから、常に意識していないと社会と会社が乖離してしま
います。乖離をさせないためには、常に社外の人たちと
つながっていることが重要です。ですから、雪印メグミル
クの企業倫理委員会と社外取締役の関係も、毎月のCSR
グループ活動も、非常に貴重だと思います。

江澤 今、大事なことは、一人ひとりが会社で働くこ
とに感謝できるようになることだと思います。会社で働い
ていることに感謝し、健康に関する食品を扱っているとい
う自覚と責任と誇りを持てるようになってほしいのです。
そのためには、まだまだ主体性が不足していると思いま
す。主体性とは、自ら学び、それを身に付け、自ら判断し、
責任を持って行動することです。会社の全員が、大きな
可能性を秘めたミルクというものに関わっているのです。
その素晴らしい仕事の一員として自分が関わっている
という意識を持ってほしいと思います。そうすると、毎日、
会社に来るのが楽しくなります。感謝の気持ちで励む姿
勢は、家族、社会全体に伝わります。この会社で働けるこ
とに感謝し、楽しく、幸せに毎日を励んでほしいという思
いです。



日和佐 会社を変えるためには何でもやろうと考えていた時期とは違い、今は、思い切って何でも言ってしまうという部分がなくなってきました。あまり冒険をしなくなってきたと感じています。ネット社会の発展などもあり、食品メーカーとして冒険すると叩かれることが増えてきたことも理由の一つだと思います。今は、消費者の方がわがままを言いたい放題で、それに対して企業側が迎合している状態です。何か言われたらすぐに商品を回収して謝罪する流れになっています。しかし、言うべきことは言うていく必要があります。「消費者の皆さん、それは違いますよ」ということも、ときには言わなければならない世の中になっていると思います。

江澤 私もそう感じます。牛乳や乳製品の価値を、自信をもって伝えていかなくてもなりません。そのためには、まず会社の中の人がもっと乳(ミルク)の価値を知る必要があります。乳製品は、生涯を通して健康に関わるものです。ですから、自覚と自信と誇りを持って啓発活動をしていくことが大事です。「未来は、ミルクの中にある。」、正にこれからの取組みが大切です。

今後の雪印メグミルクグループへの期待

酪農家と一緒にあって、
日本の酪農を豊かに(日和佐)

ミルクの価値を伝えていくことで、
ミルクの可能性がさらに展開する(江澤)

日和佐 先ほどもお話ししましたが、この会社は、そもそも酪農家が作った会社です。今、日本の酪農は非常に厳しい状況に置かれています。酪農家と一緒にあって、日本の酪農を豊かにし、消費者に日本の牛乳・乳製品を食べてもらうことが、これからの雪印メグミルクの大きな使命だと思います。

また、CSRについては、世の中に打って出るようなことに挑戦しても良いのではないかと思います。食生活に欠かせない商品を作っていて、それを安全に提供することは、食品メーカーとしての基本ですが、一人ひとりの仕事の中でCSRを考えようといってもなかなか難しいものがあります。社会にお返しをして、みんなが元気になるような社会貢献活動に、一歩踏み出してほしいと思います。

江澤 牛乳を扱っている会社としては、消費者の皆さんの健康な生活のために、牛乳や乳製品を摂る習慣を身に付けることが大切であるということを商品づくりや食育活動などによって広めていくことが大切です。そのためには、健康についてより深く学び考え取り組んでいくべきだと思います。雪印メグミルクがミルクの価値を広く伝え、ミルクの可能性がさらに展開することを期待します。

1. 新しい生産設備が本格稼動

雪印メグミルクは、前中期経営計画（2009～2014年度）の中で、生産物流体制の構築による事業基盤の強化に取り組んできました。

複数の工場を集約した、海老名工場と阿見工場は、「戦略投資設備」と位置づけられ、2014年度に本格稼動しました。

FACTORY 1

海老名工場



国内最大級の市乳工場※が稼動

海老名工場は、1967年に雪印乳業 厚木工場として操業を開始し、牛乳・乳飲料、ヨーグルトなどを生産してきました。

2011年8月より、東日本エリアにおける生産物流体制の整備を目的に2期にわたる工事を行ない、2014年4月に全ラインが稼動しました。

日野工場と富里工場から製造ラインを移管・集約し、牛乳・乳飲料、ヨーグルトに加え果汁・清涼飲料などがアイテムに加わり、生産規模が従来の2倍以上の日本最大級の市乳工場となりました。

現在117品目、年間約22万キロリットルの商品を生産しています。中でも今回新たに設備を導入し生産を開始したプラボトルドリンクヨーグルトは、新しい市場を創造する商品として大きな期待が持たれています。



プラボトルドリンクヨーグルトの製造ライン

※市乳工場：当社では、牛乳・乳飲料、果汁・清涼飲料、ヨーグルト類、チルドデザートを生産している工場を市乳工場と呼んでいます。

～海老名工場、阿見工場～

海老名工場 主な生産品目

皆様にお馴染みの「雪印メグミルク牛乳」、「毎日骨太」、「雪印コーヒー」、「Dole®100% ジュース」をはじめとする牛乳・乳飲料、果汁・清涼飲料などの各種紙容器飲料、「ナチュレ 恵 megumi」、「牧場の朝ヨーグルト 生乳仕立て」、「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト ドリンクタイプ」など各種ヨーグルト、「クリーミリッチ」、「コーヒーホワイトミニ」など各種 クリーム類を生産しています。



工場見学に力を入れています



見学コースの入口

海老名市は古くから交通の要所であり、海老名工場も圏央道海老名ICに隣接し、交通アクセスに優れた場所に立地しています。相模川を挟んで丹沢連峰、富士山を望むことができます。

見学コースからは、商品を充填・包装している工程などがご覧いただけます。また、製造工程の見えにくいところの一部も、モニターによってご覧いただくことができます。



ガラス越しに商品がつくられているところをご覧いただけます



工場内に料理教室などを実施できる本格的なクッキングルームを設置しました



製造室が見える全長90mの通路

環境への取組みも積極的に進めています

海老名工場は、環境啓発活動にも力を入れ、工場来場者に紙パックの原料（主に針葉樹）から、回収されてできた再生品までの流れ（リサイクルループ）を見て触って実感していただけます。オリジナル展示物を作成するなど、一人ひとりが環境を考えて行動する社会をめざして取組みを進めています。



リサイクルループの展示コーナー

阿見工場



国内最大級の乳製品工場

阿見工場は、2012年3月に建設を開始しました。2014年3月より順次ラインが稼動し、2014年11月に全製造設備が本格稼動いたしました。

阿見工場は、横浜チーズ工場・関西チーズ工場・厚木マーガリン工場の3工場から生産機能に移管・集約するという当社で初めてのビッグプロジェクトでした。

製造設備は37ラインで、およそ200品目を年間約5万トン生産する国内最大級の乳製品工場です。プロセスチーズとマーガリン類を生産する拠点として、乳製品の需要拡大という大きな使命を持っています。

さらに総合物流センターを併設することにより、原料調達、製造、保管、出荷までを一体化し、効率化が実現しました。



主力の6Pチーズの生産ライン

阿見工場は、以下のコンセプトで設計を行ない、イノベーションの具現化を目指しております。

- 生産の効率化と新技術へチャレンジする。
- 調達・物流の合理性を追求する。
- 新しい生産体制を構築する。
- 品質と技術の一段高いレベルアップを図る。
- 人と環境に配慮した、魅(見)せる工場とする。

阿見工場 主な生産品目

皆様にお馴染みの「6Pチーズ」、「スライスチーズ」、「ベビーチーズ」をはじめとしたプロセスチーズや、「ネオソフト」に代表されるマーガリン類の生産拠点であり、乳製品の需要拡大という大きな役割を担っています。



充実した見学設備がお客様をお迎えします

6月1日からお客様の阿見工場の見学が始まりました。

生産しているプロセスチーズやマーガリンについて、クイズを取り入れた映像や試食などを交えて、楽しく見学していただけるプログラムです。

まずはPRルームにて、工場の概要などの説明の後、6Pチーズやネオソフトなどの製造、包装ラインを見学します。見学コースには、模擬エアシャワーの体験、乳製品の歴史の展示などがあり、品質管理や、乳製品に関する知識を深めていた



だくプログラムとなっています。見学の後は、阿見工場で生産した乳製品をお召し上がりいただけます。

トリックアートもお楽しみいただけます



見学コースにはチーズのトンネルがあります



工場内にあるショップでお買い物ができます

阿見総合物流センター



阿見総合物流センターは、2013年12月から稼働を開始し、それまで関東と関西に設けていた保管倉庫の機能を集約するとともに、関東・東北・東海地区の得意先へ配送する機能も持っています。この倉庫は約37,000棚(パレット)の保管能力を持っています。

当センターは、庫内を冷凍(-25℃)、冷蔵(0℃、5℃、10℃)、定温(20℃)、常温の六つの温度帯に分け、製品と原料チーズの熟度管理にも対応しています。



原料チーズもロボットアームで自動で仕分されます

工場で製造された製品は、コンベアーで物流棟に送られ自動でパレットに積み付けられます。その後、立体倉庫へ搬送され、格納が全て自動で行なわれます。

当センターは、倉庫業の登録と保税蔵置場の許可を取得しており、輸入した原料チーズは未通関のまま搬入され、工場の生産に必要なタイミングで通関し、製造にまわされます。

また、新たに開発した製造管理システム・倉庫管理システムなどさまざまなシステムを連携させ、自動倉庫への入出庫や生産ラインへの原料の供給、ラインから倉庫への製品の入庫など全てを自動化しています。

特集

2. 酪農とともに ～雪印メグミルクグループの取組み～

雪印メグミルクの歴史を紐解くと、酪農とともに歩んできた軌跡が見えてきます。そして、日本の酪農を守り、酪農家とともに成長し、消費者にミルクの恵みを届けることは私たちの使命でもあります。

ここでは、雪印メグミルクがどのように誕生したのか、そして私たちの3つの使命のひとつである「酪農生産への貢献」にどのように取り組んでいるのかを皆様にお伝えいたします。

雪印メグミルクの生いたち

雪印メグミルクの前身企業である「雪印乳業」、「日本ミルクコミュニティ」は、それぞれが生産者団体を母体として生まれた歴史があります。雪印メグミルクグループのルーツは日本の酪農そのものにあり、常に酪農家とともに歩んできました。

「雪印乳業」の前身である「北海道製酪販売組合」は、1925年に設立され、今年で90周年を迎えます。

雪印メグミルクグループでは、これからも日本の酪農を応援し、ともに成長していきます。

1. 北海道酪農のはじまり

北海道の開拓が本格化した明治初期、米国からエドウィン・ダンが来日。北海道に初めて酪農業を紹介しました。酪農は今でこそ北海道を代表する産業ですが、先人たちは寒さの厳しい北海道の大地と、そこに住む人々をいかに豊かにするかを求め、畜産主体の農業を目指しました。これが現在の北海道酪農へとつながっています。

2. 苦境から酪農家を守る組織が誕生

1923年には関東大震災が発生し、政府によって食糧政策がとられたことを契機に乳の需給バランスが崩れてしまいます。酪農家が企業に原料乳を買いたたかれて苦境にあえいでいた時、「農民による、農民のための生産組織」として「北海道製酪販売組合」が1925年に誕生します。北海道の先駆的な酪農家が集まり、協同友愛の精神で酪農を興し、牛乳・乳製品を普及させることで日本人の体位を向上させようという大きな志から始まりました。この組織が、雪印乳業の前身です。

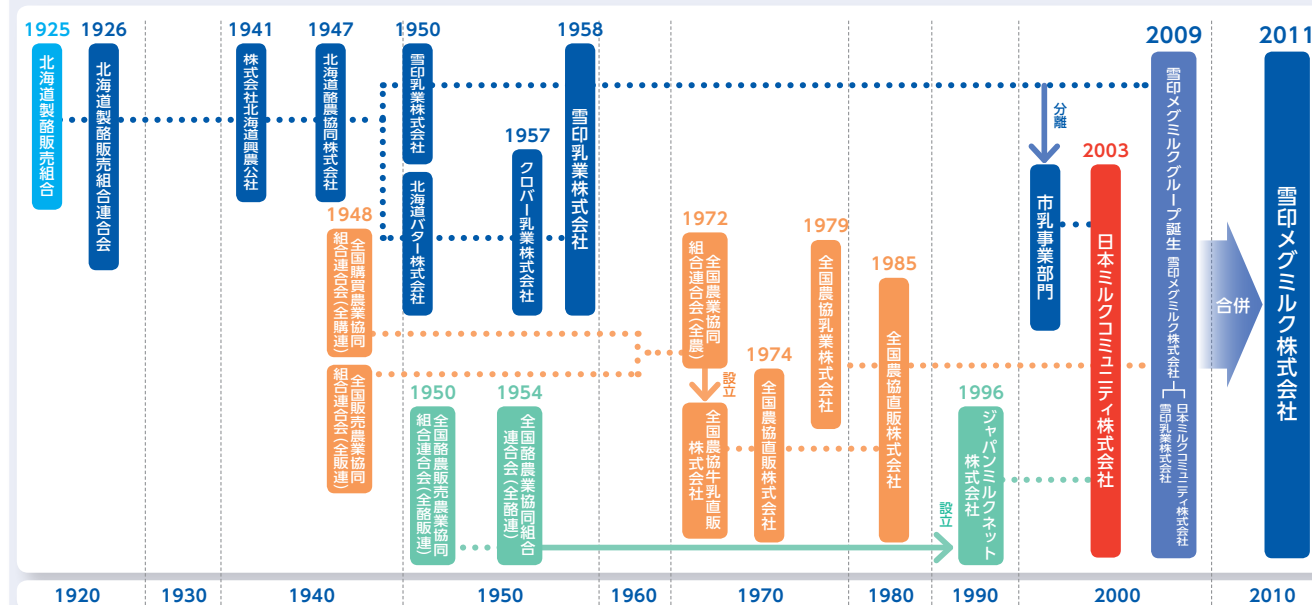


当時の
バター製造機器



藻岩山の牧場での黒澤西蔵

雪印メグミルクの歴史



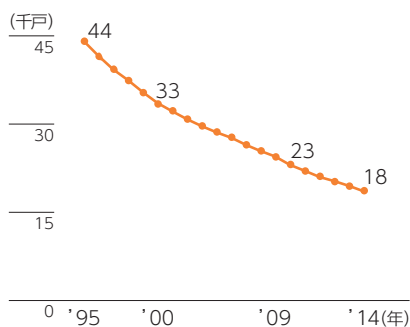
日本の酪農の現状

● 生乳生産の変遷

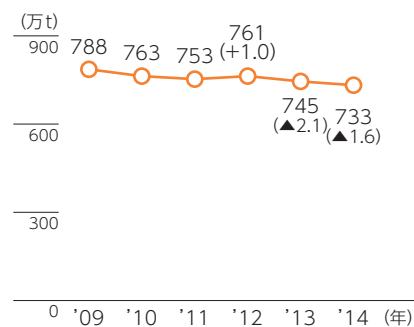
かつて日本は「酪農の盛んな国」と言われていました。生乳生産量で見ると、1989年度には約800万トンにまで増加し、ミルクが持つ良質なタンパク質やカルシウムを国民に供給していました。当時のニュージーランドは約700万トン、オーストラリアは約600万トンですから、酪農大国である両国よりも多く生産していたことが分かります。現在、ニュージーランドは約1,800万トン、オーストラリアは約900万トンと年間生産量は増加していますが、日本では733万トンと減少しています。

この背景には酪農戸数の減少があります。後継者の不足や将来に対する不安感が増していることが影響していると思われます。

日本の酪農家の戸数の推移



生乳生産量の推移



農林水産省資料より作成

酪農の現場を見てきました ～企業倫理委員会による酪農視察～

日本の酪農を守り、ミルクの恵みを消費者に提供し続け、酪農家とともに成長していくことは私たちの使命です。課題解決のためには何よりも酪農家の声に耳を傾け、一丸となって課題解決の糸口を模索していく必要があります。

その中で、酪農家の実情を把握し、どのように酪農生産への貢献をしていくか見識を高めるために2014年11月、企業倫理委員会による酪農視察を実施しました。茨城県の美野里酪農業協同組合・関東生乳販連茨城県中央クラスター・外之内牧場・朝倉牧場を訪問し、酪農に関わる皆様からの意見を



外之内牧場の奥様、登美さんの想いに耳を傾ける企業倫理委員会委員

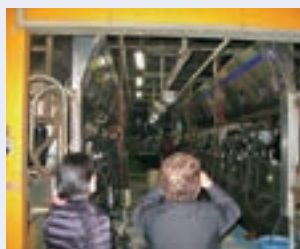


をお伺いしました。また、外之内牧場の外之内登美さんからは「酪農は本来子牛が飲む乳を人間が頂く産業です。命を頂いているという想いで酪農をしていますし、牛が好きだからこそ酪農をやっています。国は規模拡大を進めていますが、私たちは経済性のためだけではないのですよ。」と酪農に対する熱い想いをお伺いしました。この想いに触れ、改めて雪印メグミルクグループが使命を果たしていくことの意義を強く感じる視察となりました。

酪農生産に貢献することは、消費者への良質なタンパク質とカルシウムの供給を守ることにもつながります。私たちのルーツである酪農家とともに発展していくため、これからも雪印メグミルクグループは日本の酪農を応援していきます。



外之内牧場の視察



朝倉牧場の視察

雪印メグミルクグループの「酪農生産」への取り組み

● 雪印メグミルクグループの酪農生産への貢献

日本の酪農生産に貢献するため、雪印メグミルクグループではさまざまな機関や研究所、委員会を設置しています。例えば酪農総合研究所（酪総研）では自給飼料の増産や酪農経営向上に向けた調査研究活動を行っており、日本の酪農家の成長につながる実践的活動を推進しています。また、酪農諮問委員会では、高い見識と豊富な経験を持つ有識者の方々からの意見や助言をいただいています。

さらに、社外の眼による検証や提言をいただくために企業倫理委員会による酪農の視察なども行なわれています。

酪農諮問委員会

酪農に関する意見を聞く場として、雪印メグミルク発足時から酪農諮問委員会を設置し、年2回開催しています。酪農諮問委員会には、酪農生産を代表する方、学識経験者の方々に参画していただいています。

2014年度は、諮問テーマとして「酪農乳業の体質強化に向けた課題と今後の対応」について討議を行ないました。畜産・酪農の成長産業化を目指した農業政策の転換期に、将来に期待を抱き、経営継承や新規参入への意欲を喚起して担い手を確保できる魅力ある酪農の姿はどうあるべきか、支える政策や関連団体のあり方など、各委員からそれぞれ率直な意見をいただきました。



酪農生産の課題と対応にむけた活発な意見交換の場となっています

酪農諮問委員会
委員一覧

PAGE
44

日本酪農青年研究連盟（酪青研）

酪青研は、酪農実践について研究する酪農家の団体です。1948年北海道の若き酪農家たちが始めて以来、現在では全国約2,000名の会員で活動を展開しています。

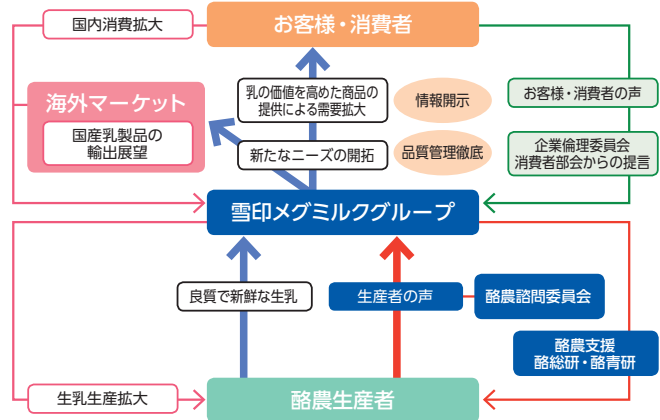


第66回日本酪農研究会 開会式



とわの森三愛高校の皆さんによる発表

生産者と消費者をつなぐコミュニティの構築



当社グループは運営の事務局として発足当初から支援しています。

毎年全国から会員が参集する日本酪農研究会は、2014年で第66回となり、札幌市で開催されました。

研究会では、全国から選抜された酪農家6名の方による酪農経営発表と8名の方から酪農に対する想いや取組事例発表が行なわれました。また、特別プログラムとして、酪農を志す高校生による「未来へ思いをつなげるために」と題した発表が行なわれました。酪農への真摯な想いに触れることで「担い手問題」に関する明るい兆しを感じました。また、酪農研修牧場における具体的な活動、地域の酪農の担い手育成に向けた取組みなどが紹介されました。

酪農総合研究所

酪農総合研究所は、酪農産業に関わる幅広い分野の科学的・実践的調査研究とその成果の普及を通して、わが国酪農の発展と食料の安定的需給に寄与していくことを目的として雪印メグミルクに設置されています。

毎年開催されるシンポジウムは、2014年で38年目を迎え、札幌市にて開催されました。

本年度は「乳牛飼養管理技術の向上—日本型飼養管理の方向性—」をテーマに掲げ、全国各地より酪農生産者、関係機関指導者、研究者および当社グループ関係者約280名が集い、活発な議論が交わされました。



シンポジウムでの総合討議

● 酪農家を支援していく雪印種苗(株)

雪印乳業の創業者の一人である黒澤酉蔵が提唱した、健全な土地が健全な食料をもたらし、健全な食料が健全な人間を形成する「健土健民」の理念のもとに事業を展開しているのが雪印種苗です。

雪印種苗は「酪農・農業に貢献する事業活動を通して社会を豊かにしたい」という想いを創業から60年以上の歴史の中で貫き、酪農畜産の発展と酪農経営のための牧草飼料作物種子、配合飼料、農業資材を提供している会社です。特に気候・風土に対応した品種開発力と牛用に特化した配合飼料の開発力が強みであり、酪農畜産農家をサポー

トしています。例えば、雪印種苗で開発した「サイマスターAC」は、牧草を格納するサイロ内で、乳酸菌・酵素製剤によって発酵品質を改善させるもので、2014年度の北海道指導参考事項に認定されています。このように雪印種苗では「健土健民」の理念のもと、酪農家を支えるさまざまな製品を生み出しています。



開発された「サイマスターAC」

● 「(株)TACSしべちゃ」での取り組み

北海道釧路市から北へ50km離れた緑豊かな所に標茶町^{しべちゃ}があります。牧草地面積約27,000ヘクタールを有し、約39,000頭の乳牛を飼育する道内屈指の酪農地帯で、全国有数の生乳生産量を誇る町です。



TACSしべちゃ



完成した牛舎

この標茶町に2013年11月、標茶町農協・雪印種苗・標茶町の三者が出資した農業生産法人「(株)TACSしべちゃ」が設立され2015年4月より搾乳を開始しました。

「(株)TACSしべちゃ」の設立主旨は、北海道が有する広大な草地を活かし、本来あるべき自給飼料を中心とした

草地型酪農の模範となる農業生産法人として低コスト型の経営を目指すとともに、実践内容を積極的に地域に普及させることです。

雪印種苗は、地域に適した牧草の植生研究などを活用し、自給飼料の更なる品質の向上に取り組んでいます。これらの取り組みを通して、今後も挑戦し続けていきます。

酪農と乳の歴史館

1977年に落成した「酪農と乳の歴史館」は、開館以来約377万人の方にご来場いただいています。館内には、製造機器などの実物や模型、日本の酪農乳業の歴史に関わる貴重な史料を展示しています。

来場者の方に酪農と乳の歴史を正しく知っていただくことは、酪農乳業の発展につながることを確信しています。



酪農と乳の歴史館

所在地：北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号

見学時間：9:00～11:00 / 13:00～15:30

休館日：土、日、祝日、年末年始（見学には予約が必要です）

ホームページ：<http://www.meg-snow.com/fun/factory/sapporo.html>

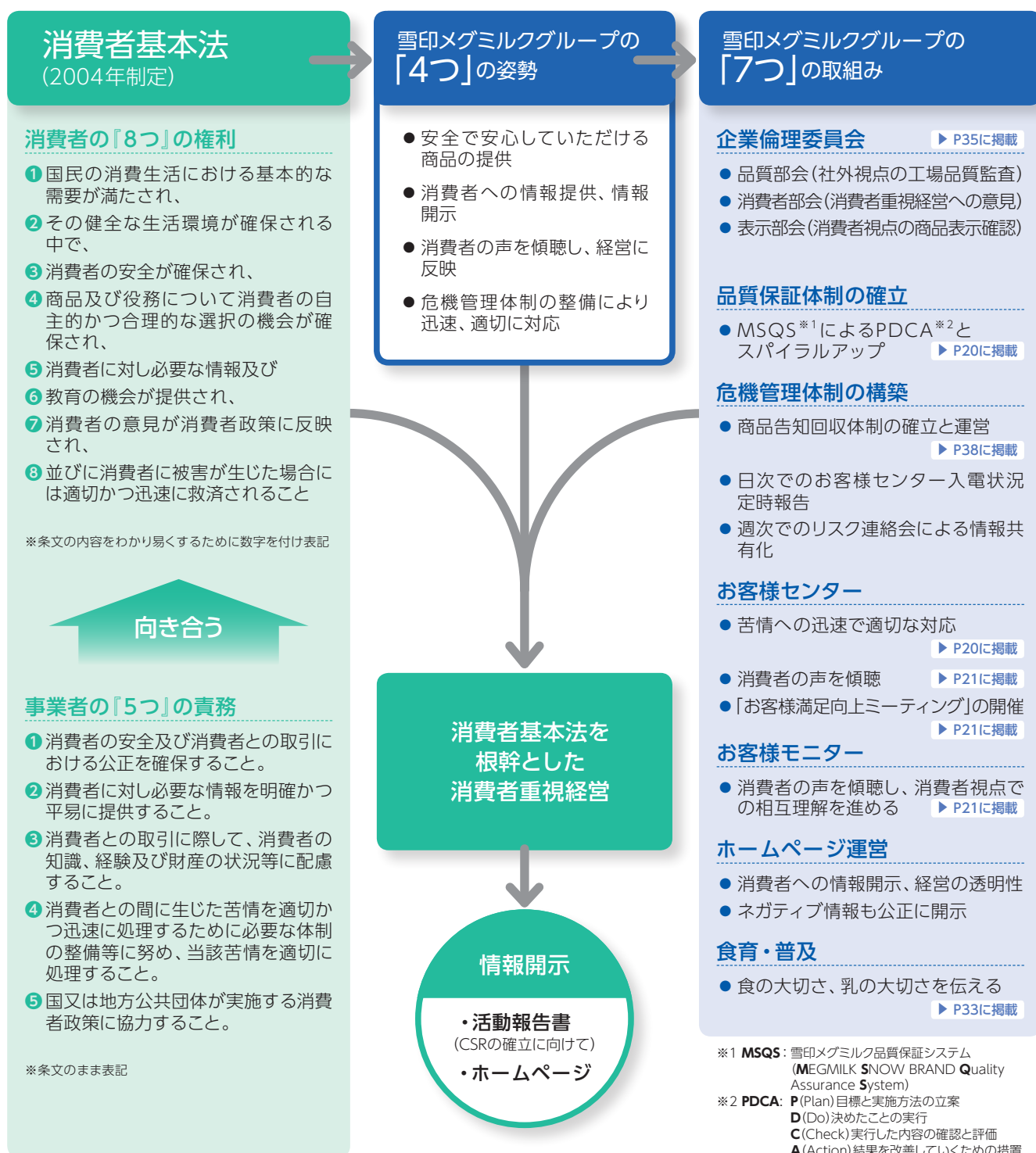
<< CLOSE UP!

消費者重視経営の実践

迅速で正確な情報を提供していくとともに、お客様・消費者の声に耳を傾け、消費者重視経営を実践していきます。また、独自の品質保証システムを確立し、安全で安心していただける商品をお届けしていきます。

雪印メグミルクグループの「消費者重視経営」

私たち雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた消費者の「8つ」の権利に向き合い、「4つ」の基本姿勢に基づく「7つ」の取組みにより、事業者の責務を果たしていきます。



安全で安心していただける商品の提供

●「3つの目」による品質チェック

【雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の仕組み】

雪印メグミルクは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視の経営を実践し、信頼していただける品質の実現を目指します。そのために品質保証方針として、以下の4つの項目を定めています。

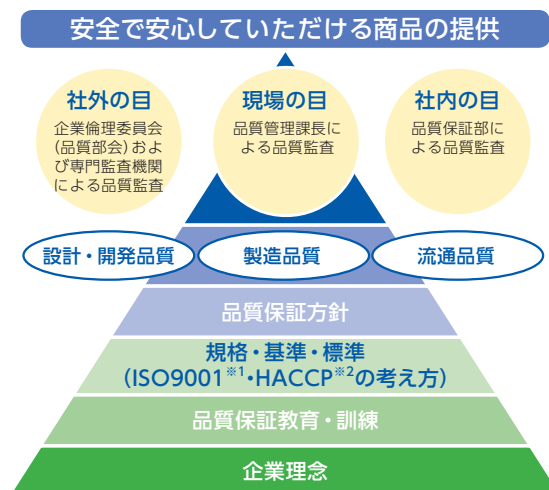
雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。なお、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・

品質保証方針

- ① 消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
- ② 適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
- ③ 消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
- ④ 危機管理体制を整備し、迅速、適切に対応します。

検証するために、現場、社内、社外の3つの目でチェックを行なって、品質保証システムを改善し強化しています。

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の概念



※1 ISO9001：組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

※2 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)：原料から製品にいたる一連の工程において発生する危害を調査・分析した結果から、特に重点的に管理する必要のある箇所を常時モニタリングすることで製品の安全性確保を図るもの。

● お客様のお申し出に迅速かつ適切にお応えします

【お客様センター】

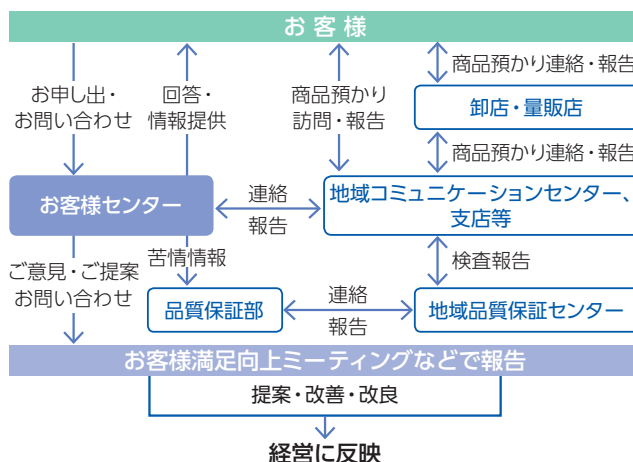
雪印メグミルクでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでの問い合わせに年中無休で「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考えています。いただきました貴重なご意見は、担当部署へ伝達し、より良い商品の提供へ役立てています。



お客様からの声をいただいています

また商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関係部署と連携して検査を実施し、お客様に迅速な報告を行なっています。

お客様センターの対応の流れ



● 食品の放射性物質に係る対応について

雪印メグミルクは、お客様に安全で安心していただける商品をお届けするために、定期的に放射性物質の検査・モニタリングを行ない、国が定める基準値以下であることを確認し

ています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。



※よくいただく質問、放射性物質について
<http://www.meg-snow.com/customer/faq/radioactivity.html>

私の CHALLENGE

雪印メグミルク(株)
阿見工場 品質管理課

本庄 亜矢子

製造現場と協力して、阿見工場を雪印メグミルクNo.1の品質を誇る工場にしていきたい!



お客様の満足への取り組み

● お客様の声に耳を傾け商品・サービスに活かします

[お客様満足向上ミーティング]

雪印メグミルクでは、お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、「お客様満足向上ミーティング」を開催しています。

お客様から寄せられたご意見・ご要望の中で数の多かったものを中心に、「お客様満足向上ミーティング」にて関係部署間の協議を行ない、2014年度は改善を決定したものが25件となりました。その結果についてはホームページなどでお知らせしています。

また、「お客様満足向上ミーティング」の内容は「企業倫理委員会」、「取締役会」で報告しています。

お客様の声にお応えした例を以下に紹介します。



● お客様の声を社内に伝えています

[お客様モニター制度]

「お客様モニター制度」は、応募者の中から選考された関東、関西の消費者の皆様と、工場見学や牧場での酪農体験、グループディスカッションなどを行ない、その中で出されたご意見を企業活動に反映させていこうという取り組みです。お客様モニターでは、若手社員がモニター運営のサポートを行っており、各会に参加し、ともに学んでいます。

昨年は、工場見学や牧場での搾乳、バター作り体験と「当

社の情報発信」をテーマとした意見交換会などを行ない大変好評を博しました。今後も当社の取り組みを通して得られたお客様の声を社内に伝える活動を続けていきます。



こどもの国牧場



京都工場

コラム

第35回日本食品微生物学会にて「優秀発表賞」を受賞 リステリア菌の検査技術に関する研究—食品衛生研究所—

食品衛生研究所では、食品衛生に関わる微生物・食中毒等の研究や製造工場の衛生検証等、商品の安全性確保のための活動を幅広く実施しています。

このたび、2014年度第35回日本食品微生物学会学術総会においてリステリア菌の検査技術に関する研究「リステリア属菌検出キットを用いたナチュラルチーズ工場における環境モニタリングシステムの構築」で優秀発表賞を受賞しました。

<受賞の概要>

リステリア菌は、製造室などの環境調査において、一般細菌と共存する生育環境下では増殖が抑制されることを確認しました。このことから、リステリア菌検出キットを用いて迅速検査法を実施する場合は、培養時間が重要となるためその最適時間を明らかにし、リステリア菌検査システムを構築しました。

なお、本検査法を用いて実施した当社ナチュラルチーズ工場の環境モニタリングでは、リステリア菌は検出されず、製造環境が適切に管理されていることを確認しました。



私の \ CHALLENGE /

ビーンスターク・スノー(株)
商品開発部

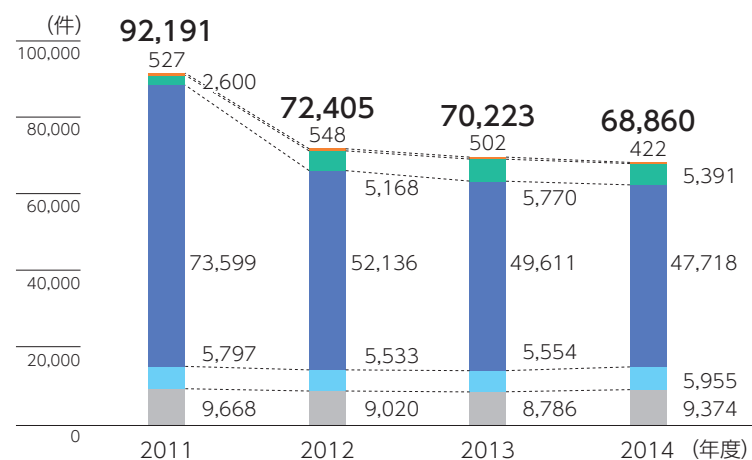
中島 彰伸

お母さんの育児ストレス 取り除いてみせます!!



● お客様センターの受付件数

2011年度～2014年度の受付件数



- 満足** : お褒め、お礼、激励など
- 興味・関心** : 宅配お申し込み、取扱店紹介、サンプルや資料のご請求など
- 問い合わせ** : 商品の原料、製法、保存方法、利用方法などへのご質問
- 不満・指摘** : 商品・サービスに対するご不満点へのご要望
- 苦情** : 商品引取り、訪問、検査などの対応が必要な苦情

2014年度の主な特徴

1. 受付件数

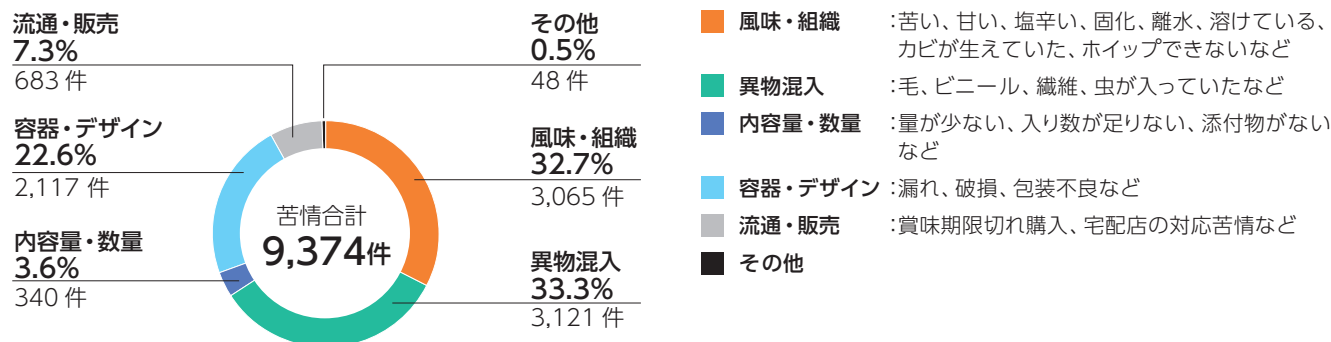
2014年度の受付件数は、前年度と比較して、全体で約2% (1,363件) 減少しました。

2. 入電の傾向

前年度に引き続き、ヨーグルトの機能性に関するお問い合わせが増加しました。特に「ガセリ菌SP株」についてのお問い合わせは、2013年度の約60%増となり、ヨーグルトについての関心の高まり傾向が続いています。

また、2014年12月以降の、「バターの商品不足」、「食品への異物混入」報道などの影響もあり、苦情および不満・指摘の申し出件数が2013年度を上回りました。

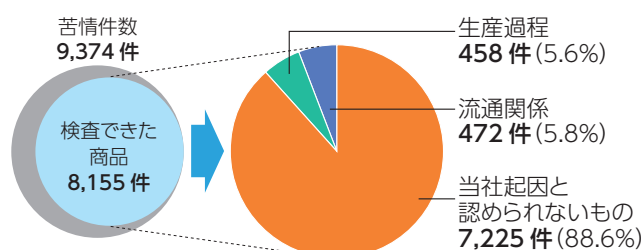
2014年度の受付件数の中での「苦情」の内訳



● お客様苦情のうち、ご協力いただいて検査ができた商品の起因別内訳

2014年度の苦情件数9,374件のうち、商品の提供をいただいた8,155件について検査を実施しました。

その検査結果から、苦情起因の推定を行ない、商品の設計や製造工程の改善に役立てています。



私の CHALLENGE

雪印メグミルク(株)
近畿支店乳食品課

長嶋 香奈 (右から2人目)

地道な営業活動と笑顔で、
1人でも多くのお客様に雪印メグミルク製品をお届けできるようがんばります！



<< CLOSE UP!

乳(ミルク)にこだわる

「乳(ミルク)にこだわる」企業として、長年にわたり積み重ねてきた技術によりさまざまなミルクの価値を提供しています。これからもさらに技術を極めることで秘められた未知なる力を引き出していきます。

乳(ミルク)のもつ機能性を広げる商品

乳(ミルク)には、栄養補給やおいしさだけでなく、さまざまな健康機能があります。

雪印メグミルクグループでは、乳(ミルク)の新しい価値を生み出すために、長年にわたり乳を研究しつづけて、健康機能を解明してまいりました。そして、その研究から得られた機能成分を手軽にそして効率よく摂取していただけるよう研究し、お客様の健康に貢献できるよう商品化し提供しております。

雪印メグミルクおよびビーンスターク・スノーの機能性食品の一部をご紹介します。

●「MBP®」

MBP®は、以前から「骨によい」といわれてきた牛乳や母乳に微量に含まれる乳タンパク質です。雪印メグミルクでは、それに着目し研究を進めてきました。骨密度を高める働きがあることを確認し、MBP®を配合した清涼飲料水「毎日骨ケア MBP®」は、消費者庁から許可を受けた特定保健用食品です。

MBP®を使用した商品の一部をご紹介します。

毎日骨ケア MBP® 50ml×10本×3箱

特定保健用食品として許可された飲料です。ブルーベリー風味ですっきりとした飲みやすさ。骨の健康が気になる方に特におすすめです。



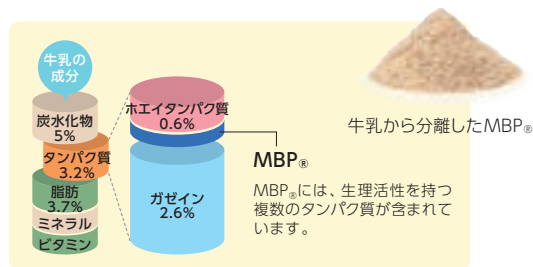
毎日すこやか MBP® カルシウムプラス 60粒

1日2粒でMBP®40mgと、不足しがちなカルシウム150mgが一度に摂れます。水なしでおいしく食べられるオレンジ風味のタブレットです。



毎日一粒 MBP® 30粒

「毎日骨ケア MBP®」の愛用者の要望にお応えした携帯に便利なタブレットです。



●「ミルクセラミド MC-5」

ミルクセラミド MC-5は、ミルクに微量に含まれるセラミドの素で、雪印メグミルク独自の技術で抽出した機能性素材です。

ミルクから製造されたミルクセラミドは吸収性と保水性が高く、しっとり感をサポートします。

うるおいの恵み 15g×30袋

毎日のうるおいの素「ミルクセラミド」を配合した美容のためのサプリメントです。毎日無理なく続けられる、ブルーベリーヨーグルト風味です。まずは1日1袋を目安に1ヶ月お試しください。



●「ホエイペプチド HW-3」

ホエイペプチド HW-3は、必須アミノ酸を豊富に含む牛乳由来のホエイ(乳清)タンパク質で雪印メグミルク独自の技術で調製した消化吸収性に優れた機能性素材です。

国内の健康食品に幅広くご採用いただいています。

●「カルシウムを摂りやすくした商品」

不足しがちなカルシウムを効率よく摂っていただくために、さまざまな形態で商品を開発しお客様に提供しています。

ミルクからのカルシウム 16g×6本

スティック1本で1日分の約1/2相当のカルシウムが摂取できる特定保健用食品です。牛乳の代わりに飲んだり、料理に加えて不足しがちなカルシウムを効率よく摂取できます。



ミルクの雫 240粒

牛乳が苦手な方でも飲みやすい小型のタブレットです。8粒で1日分の約1/2相当のカルシウムが摂取できます。



私の CHALLENGE

雪印メグミルク(株) 機能性食品事業部 機能性食品グループ 森 隆志(左)

期待される成長分野として、機能性食品拡大のために
お客様一人ひとりに誠実に向き合います。



乳（ミルク）の価値を高める商品

●「雪ミルク」 ミルクの新しいおいしさを追求しました



〔販売エリア〕
北海道・東北・関東地域

生乳本来の上質な味わいを生かした新しいおいしさを実現するために、シルキーミルク製法を構築。生乳を脱脂乳とクリームに分離したあと、130℃で殺菌したクリームと、膜除菌した脱脂乳を合わせて75℃15秒で殺菌することで、さらにおいしくクセがなくて飲みやすい、新しいおいしさを実現しました。また、牛乳（成分調整牛乳）で日本初となるキャップ

付き新容器を開発し採用しました。

シルキーミルク製法とキャップ付き新容器の2つの新技術で造った「雪ミルク」は、日本食糧新聞社制定「第28回新技術・食品開発賞」を受賞するなど、新しいタイプの牛乳市場への提案として高い評価をいただきました。



第28回新技術・食品開発賞

●「ネオソフト コクのあるバター風味」 バター風味のおいしさが評価されました



発売から45年間、圧倒的なシェアを誇る「ネオソフト」ブランドで、バターを長く研究し、よく知っている当社だからこそ実現できた「コクのあるバター風味」を、毎日食べても飽きのこないおいしさに仕立てました。バターのおいしさを求めるお客様からも、高い評価をいただいております。

この「バター風味のおいしさ」は、こだわりの油脂配合や、さまざまなフレーバーの組合せの中からベストなものを選ぶことで、実現できました。（日本食糧新聞社制定「第33回食品ヒット大賞・優秀ヒット賞」を受賞）



第33回食品ヒット大賞・優秀ヒット賞

● 先天性代謝異常症用特殊ミルクの開発と供給について

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が、十分にできない患者様のための粉ミルクです。赤ちゃんは、生まれてすぐに血液検査を受けます。代謝異常が発見されると医師の指示のもと特殊ミルクが与えられます。雪印メグミルクでは雪印乳業時代よりこうした患者様方の健やかな発育を願い、特殊ミルクを製造・供給しています。

雪印メグミルクは国内で最初に特殊ミルクを開発した企業として、また当社が果たしていくべき社会的責任として、今後も特殊ミルクの品質を確保し、患者様に安定供給してまいります。（現在、製造・供給している医薬品2品目、登録特殊ミルク6品目は当社のみが供給しています。）

製造・供給している特殊ミルク品目

品目		対象疾患	
医薬品 (2品目)	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症	
	Leu,Ile,Val 除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症	
登録 特殊ミルク (6品目)	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症	たんぱく・ アミノ酸 代謝異常
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症	
	Phe,Tyr 除去粉乳	高チロシン血症	
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症	
	Ile,Val,Met,Thr,Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症	有機酸 代謝異常
	Lys,Trp 除去粉乳	グルタル酸血症1型	

登録特殊ミルク：
社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター特殊ミルク事務局の指示により製造、供給

私の CHALLENGE

雪印メグミルク(株)
ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室 山本 祐也

私の得意な科学的な考え方を容器包装の開発にさらに取り入れることにより、消費者の皆様には喜ばれる容器の設計ができるよう頑張ります。



環境への取組み

雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれる乳(ミルク)を中心とした事業活動を行なう上で、大切な地球環境を次世代に引き継ぐために、グループ全体で環境保全活動を推進しています。

環境マネジメントの推進

雪印メグミルクは、事業活動に伴う環境への影響だけではなく、社会に与える影響も考慮しながら、環境と経営が調和した環境保全活動への取組みを積極的に行なっています。

環境方針

雪印メグミルクは、「法令の遵守」、「環境への配慮」、「環境意識の向上」、「環境情報の開示」の4項目を環境保全活動の基盤として、環境負荷低減の取組みや環境意識の向上を推進し、環境保全を通して社会的責任を果たしていきます。

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例等を遵守し、法改正等に迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境マネジメント体制

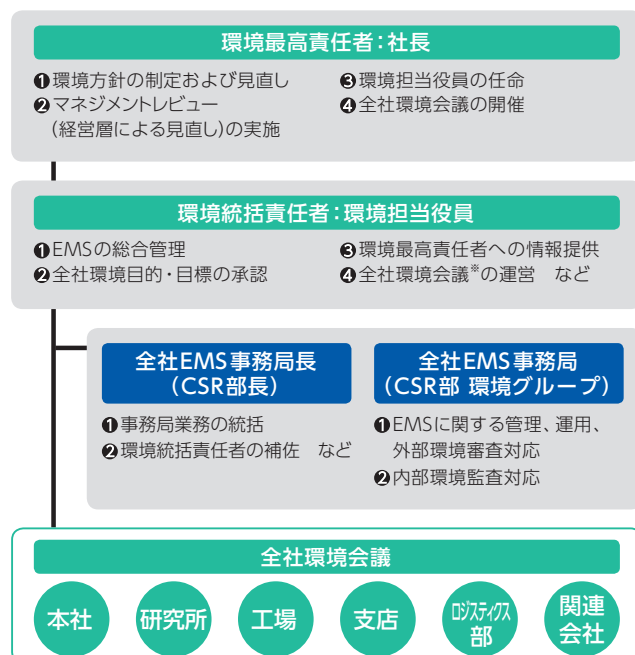
雪印メグミルクの環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員が環境統括責任者としてEMS^{※1}の総合管理を行なっています。また、各部門には環境管理責任者を置き、ISO14001^{※2}に準拠したEMSを推進しています。

※1 EMS：環境マネジメントシステム、Environmental Management Systemの略。
 ※2 ISO14001：組織内で環境保全に取り組むための国際規格。



全社環境会議

環境マネジメント体制図



※ 全社環境会議：全社環境目標の協議と進捗管理を行なうとともに必要な措置の決定を行ない、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議。

ISO14001 認証の継続

雪印メグミルクは、2011年度の日本ミルクコミュニティと雪印乳業の合併に伴い、新しい環境マネジメントシステムを運用しISO14001認証を統合しました。

2014年度は、通常の継続審査に加え組織の統廃合に伴う拡大・縮小審査が10月と2月に行なわれました。

事業所を閉鎖する際にも環境配慮は必要です。法令に基づき各種届出や敷地内の土壌調査の実施、残置資産の移設や売却、廃棄物処理などが適正に行なわれているかについて審査が行なわれました。

これらも含め、雪印メグミルクは確実な環境管理および改善を行なっていることが外部機関による審査で評価され、ISO14001の認証が継続[※]されました。

※2014年10月の継続・拡大・縮小審査で、雪印メグミルク全体の継続認証と阿見総合物流センターの追加認証(拡大)、日野工場、富里工場の廃止認証(縮小)が、2015年2月の縮小審査で横浜チーズ工場、関西チーズ工場、厚木マーガリン工場の廃止認証(縮小)が認められました。



継続審査(本社)



縮小審査(日野工場)

環境法令の遵守

雪印メグミルクは、環境方針に示しているとおり、環境関連法規の遵守のため、グループ会社を含めた全ての事業所に関わる環境法規および地域条例を抽出・特定し、これに準拠した取組みを実践しています。また、工場や研究所などにおいて想定される緊急事態の抽出と評価も行なっています。

各部署に関わる関連法規の特定様式

内部環境監査

環境監査には、審査機関による外部環境審査と社内で行なう内部環境監査があり、EMSの運用状況や環境法令の遵守状況などを総合的に確認しています。

2014年度の内部環境監査は昨年に引き続き、社内資格を有する監査員がチームを組み、全ての部署に対して実施しました。

内部環境監査で発見された指摘事項や課題を改善することで、EMSを継続的に運用・改善しています。



名古屋工場 内部環境監査



興野工場 内部環境監査



内部環境監査員養成研修(本社)

環境教育

雪印メグミルクは、社内イントラネットを活用したeラーニングにより、全従業員に対して環境教育を実施しています。また各部署に必要な環境教育を個別に計画し実施しています。

また、内部環境監査員としてのスキルを持つことを目的とした、内部環境監査員養成研修を実施し、各部署の環境活動のキーマンとなる人材の育成にも力を入れています。

私の \ CHALLENGE /

どんな時でも「明るく★楽しく★元気よく!」をモットーに、職場のみんなと協力してお客様においしいを届けたいです。

雪印メグミルク(株)
野田工場 工務課

奥田 みどり

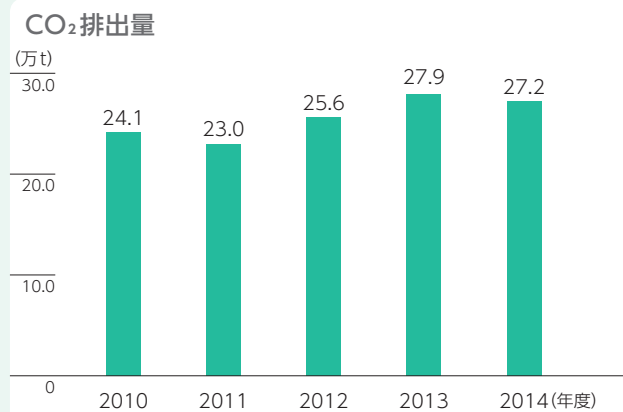


地球温暖化防止と循環型社会構築への取り組み

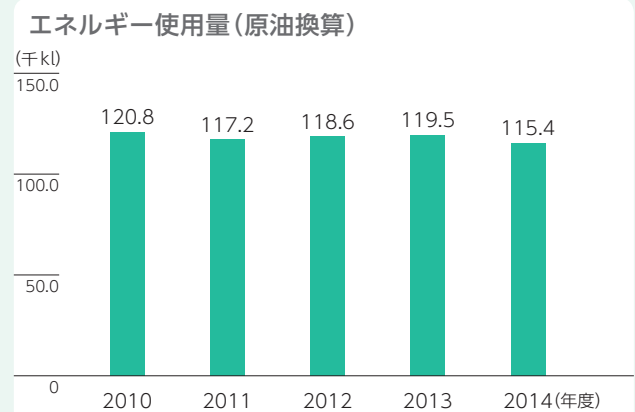
雪印メグミルクは、環境保全をCSRの基盤となる取り組みとして捉え、地球温暖化の原因であるCO₂排出量の削減や循環型社会構築に向けた廃棄物の発生抑制やリサイクルの取り組みを推進しています。

CO₂排出量とエネルギー使用量の推移

- 2014年度もエネルギー使用の効率化を推進しました。
- 特に市乳工場の集約による効率化により、CO₂排出量・エネルギー使用量ともに前年を下回りました。
- 今後は乳製品工場の集約による効率化をはじめ、さらなるエネルギー使用の効率化を推進します。



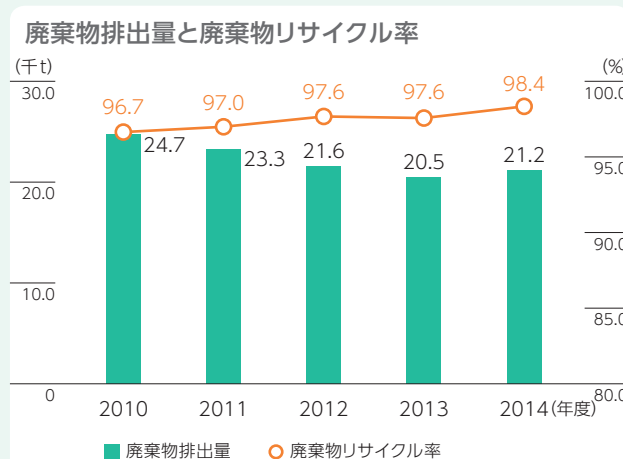
改めて精査した結果、2013年度CO₂排出量を28.0から27.9に修正しました。



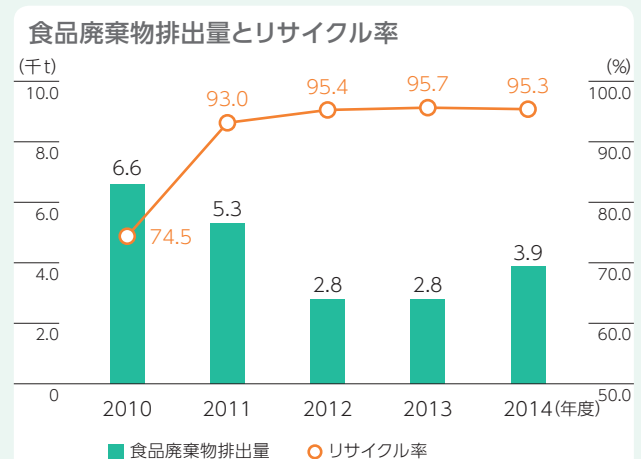
改めて精査した結果、2012年度エネルギー使用量を118.7から118.6に修正しました。

廃棄物・食品廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

- 2014年度の廃棄物および食品廃棄物の発生量は、乳製品工場の新規稼働にともなうラインテストの実施などの理由により、前年よりも増加しました。しかしながら、廃棄物のリサイクルについては高いレベルで推移しています。
- 今後も食品メーカーの責務として、廃棄物・食品廃棄物の発生抑制とリサイクルの推進に努めていきます。



改めて精査した結果、2013年度廃棄物排出量と廃棄物リサイクル率をそれぞれ18.7から20.5に、97.9から97.6に修正しました。



改めて精査した結果、2013年度食品廃棄物排出量とリサイクル率をそれぞれ2.6から2.8に、93.3から95.7に修正しました。

※工場、ロジスティクス部、研究所計

私の \ CHALLENGE /

ハケ岳乳業(株)
経営管理部 管理課

田中 美穂(左) 森 綾子(右)

新しい分野の知識を深め、毎日笑顔で頑張ります!!



事業活動と環境影響

雪印メグミルクでは、事業活動に伴う環境負荷状況を把握し、エネルギーや水、原材料、包装材料などの資源を効率的に利用する取組みを推進しています。

マテリアルフロー



私の

CHALLENGE

雪印メグミルク(株)
ロジスティクス部 阿見総合物流センター

菅沼 智昭(左) 石澤 岳(右)

主に原料供給・製造入庫を担当する男子2名です。
新しい雪印メグミルクをつくるため、日々奮闘しています。



カーボンオフセットの取組み

カーボンオフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で得られたCO₂の排出権(クレジット)を購入することにより、企業活動で排出されたCO₂の一部を間接的に削減する制度です。

雪印メグミルクは地球環境保全のひとつとして「北海道森と大地のカーボンクレジット」を購入し、当社創業の地である北海道の環境保全に貢献しています。

購入した排出権は酪農と乳の歴史館の使用電力削減に充て、酪農と乳の歴史館・札幌工場来場の方々一人当たり400gのCO₂をオフセットしています。

酪農と乳の歴史館

PAGE
18

カーボンオフセット認証書

エコドライブ実践による安全運転と燃費向上

雪印メグミルクでは、営業用車両を中心に事故低減と燃費向上を目的にエコドライブを推進しています。エコドライブとは、ゆっくりとした発進やエンジンプレーキの活用などにより無駄なアクセル踏み減らし、安全で消費燃料を抑制していく運転方法です。すでに取り組んでいる企業では、燃費が向上し事故率も低下することが実証されています。

2015年4月に運転者が燃費を可視化できる燃費測定機を346台に設置しました。また、安全運転管理者は教習所や県・市が主催しているエコドライブ教習を受講して運転者への教育を実施しています。エコドライブを実践し、安全で地球に優しい運転を目指します。



装着した燃費測定機

ライトダウンキャンペーンへの参加

雪印メグミルクでは、日頃より全国の事業所で省エネ活動や節電に取り組んでおりますが、毎年夏至～七夕の期間に環境省主催で行なわれる「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」にも参加しています。6月21日(夏至の日)と、7月7日(クールアース・デー)には屋外広告、ネオンサイン、スポットライトの一斉消灯を行ないました。

2014年度は参加して10年目*の節目として、



本社屋上



大阪道頓堀



札幌4丁目プラザ

日本縦断クールアース・デープロジェクト2014に参加し、当社の環境保全メッセージを掲出しました。

※雪印メグミルクの前身である日本ミルクコミュニティが2005年度より参加

エコプロダクツ2014への参加

12月11日～13日の3日間、日本最大級の環境展である「エコプロダクツ2014」(主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)が東京ビッグサイトで開催され、3日間で16万人を超える来場がありました。

雪印メグミルクは、全国牛乳容器環境協議会(容環協)のメンバーの一員として今回も参加し、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会などの団体と協働し、来場の方々

に牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、環境・リサイクルのワークショップなどを実施しました。たくさんの方々に牛乳パックリサイクルと再生紙利用促進の大切さを伝えることができました。

エコプロダクツ2014
容環協ブース

私の CHALLENGE

チェスコ(株)
販売統括部 商品調達グループ 小原 利美

世界各国の美味しいチーズを皆様の食卓にお届けします。
29 滋味溢れるチーズを食べて健康第一で頑張ります!



蒸気の有効利用による省エネ化

工場で使用する蒸気は、製造現場に送られるまでに必要に応じて減圧します。このときの圧力差によって発生するエネルギーを有効利用するため、なかしべつ工場では蒸気コンプレッサーを導入しました。蒸気コンプレッサーはモーターを電気ではなく蒸気の圧力差で駆動するため、

従来のコンプレッサーに比べ大幅に電力使用量を削減できます。

あわせて今まで捨てられていた圧縮熱を回収し、ボイラの給水予熱に利用することにより、燃料削減も図られました。



蒸気コンプレッサー

屋上・駐車場の緑化で環境保全

雪印メグミルクは、グループ会社の雪印種苗と協力し緑化活動にも力を入れています。工場などの敷地内の緑地を整備することはもちろんですが、熱をためやすいコンクリートやアスファルト部分を緑化することにより、植物の持つ蒸散作用により屋根や地上面の温度上昇をおさえ、ヒートアイ

ランド現象を緩和しています。

今後も、「屋上緑化」や「駐車場緑化」を推進し、CO₂の削減や周辺環境の保全に努めます。



本社屋上



川越工場屋上



海老名工場駐車場



福岡工場駐車場

(全施工:雪印種苗(株))

美化活動をはじめとする地球に優しい事業所作り

首都圏西支店では、同居するビーンスターク・スノーやグリーンサービスと合同で年4回「クリーンデー」を実施しています。「クリーンデー」とは、支店の2つの最寄り駅までの路上の美化を自主的に行なう活動です。当初は通勤経路の美化促進を目的にはじめました。最近では、近隣住民の方々と気軽にコミュニケーションができるようになり、また季節によって移りかわる道端の草花を楽しむ機会にもなっています。

「グリーンデー」をはじめとする取り組みは、調布市から高く評価され、地球にやさしい事業所づくりを応援する制度である「エコオフィス」のゴールドランクの認定を受けています。



ゴールドランク認定書



2014年11月集合写真



2014年5月美化活動

ISO14001 認証拡大に向けた取り組み



阿見総合物流センターの環境会議

2013年12月に稼動した阿見総合物流センターは、2014年度よりISO14001に準拠したEMSを導入しました。効率的な物流体制の構築やエネルギー使用量および廃棄物の削減などの数々の環境課題に対し、協力会社であるヒューテックノオリン、SBSフレックとともに環境活動を実施しています。

協力会社各社とは毎月定期的に環境会議を開催し、アイドリングストップや廃棄物の削減対策など具体的な項目について情報の共有化や対策の検討を実施しています。

2014年10月の拡大審査では、阿見総合物流センターの環境活動が認められ、ISO14001の認証を取得しました。今後もPDCAサイクルに基づいた目標管理を行なうことで継続的な改善を図ってまいります。

阿見総合物流センター

PAGE
14

私の \ CHALLENGE /

雪印メグミルク(株)
なかしべつ工場 工務課

三宅 凌平

資格取得に積極的にチャレンジし、さらなるスキルアップを目指します!



働きがいのある 会社の実現のために

従業員一人ひとりが自らの成功を実感して働きがいを感じられることが会社の発展につながっていると考え、その実現を目指してさまざまな施策を展開しています。

「人材育成=自己実現システム」の基本方針

当社の財産であり発展の原動力は「人」であることから、「人」の成長を通して「組織」の成長へつなげることを念頭に置き、以下の方針、取組みにより「常に挑戦する人」の育成を進めています。

基本方針

- ① 中期経営計画達成に向けた人材の育成を、経営状況を踏まえ、過去の育成手段に^{こだわ}らず、知恵を出して工夫し推進する。
- ② 階層別研修を通して企業理念浸透をはじめ、中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識を高める。
- ③ 公募研修および自己啓発通信教育などによる「挑戦」の機会提供を通して、「自己実現」を支援する。

「仕事をする」ということは「挑戦する」ということ



みなさんのご応募をお待ちしております(採用チーム)

当社の求める人物像は「常に挑戦者であること」です。これは当社の人事理念でもあります。では「挑戦」とはどういうことでしょうか?さまざまな価値観や考え方があるので、答えは一人ひとり違います。しかし、どのような「挑戦」であっても、当社は「挑戦する人」にはさらなる活躍の場を与えます。また、たとえ失敗しても再挑戦できる風土があります。

当社は、そのような「挑戦心」を持った方々を積極的にサポートしていきます。

2014年度新入社員の研修内容

新入社員に対しては、まず入社式後の「新入社員研修」で、社会人として、また雪印メグミルクの一員としての基礎力を養います。各事業所への配属後は、新入社員にマンツーマンで「育成トレーナー」が付き、職場全体でのフォローのもと育成を進めていきます。また、当社の使命のひとつである『酪農生産への貢献』を理解する一環として、牧場実習を主体とした「酪農研修」を実施しています。

研修が進むにつれて、入社当初の顔つきが徐々に社会人らしく変わっていく様子を見るのは担当者として非常に嬉しいです。いつかは彼らとともにこの会社の未来を創っていくことを楽しみに、一人ひとりにしっかりと目を配り、成長を支えていきたいと思っています。



人材開発センター
池田担当が研修のお手伝いをします



新入社員研修(左)、酪農研修(右)
新入社員も雪印メグミルクグループの一員として日々学んでいます

「常に挑戦する人」を尊重し、成長・活躍・自己実現の場を提供

キャリアチャレンジ制度で挑戦する気持ちを応援

希望者が挑戦したい部門・職種にエントリーする公募を「キャリアチャレンジ制度」として実施しました。選考は、応募者の自己実現意欲の高さなどを主眼に行ない、その

結果9名の方が希望する職種へ異動しました。これからも毎年継続し、キャリア形成に対する社員自らの主体的行動を促すとともに、組織の活性化につなげていきます。

女性活躍推進 ～育児休務者復職支援プログラム制度の実施～

女性活躍推進の取組みのひとつとして、育児休職のため長期間職場を離れる社員に対し、復職時の不安を軽減しスムーズに職場復職できるよう復職支援プログラム制度をつくり、活用しています。



人事担当者が
復職半年後を目途に実施する
「復職后面談」

プログラムの内容

- (1) パソコン・モバイルカードの貸与
- (2) 自己啓発通信教育の申込案内
- (3) ワーキングマザー向け情報誌の送付
- (4) 復職前面談の実施
- (5) 復職后面談の実施
- (6) 復職後の上司がダイバーシティに関する通信教育を受講

今後も、当制度を継続し、女性社員が育児と仕事を両立し、より輝いていけるよう職場環境を整備していきます。

次世代育成支援対策の推進(2014・11・08 年くるみんマーク認定取得)



次世代育成支援対策推進法(次世代法)に基づき、一般事業主行動計画を策定して、子育て支援の取組みを推進しています。2011年に策定した第3期計画期間(3ヵ年)が終了し、2014年に「子育てサポー

ト企業」として厚生労働大臣認定を受け、「くるみんマーク」を取得しました。これまでも2008年と2011年に認定を受けており、今回で3回目の認定取得となりました。

2014年からは新たな行動計画を策定し、従業員の仕事と子育ての両立に向けて育児休業制度や子育て支援の施策を推進しています。

階層別研修によって組織と人材の活性化

「企業理念の浸透」、「中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識」、「部門を超えた積極的な交流」を目的に階層別研修を実施しています。

職制(主任・副主任)研修

工場・ロジスティクスセンターの職制(主任・副主任)を対象に、職場・ラインの責任者としての知識習得や職場運営のための研修を行なっています。2014年度は「報連相

の重要性」をテーマに、双方向コミュニケーションの必要性の理解を深めました。また、ディスカッションなどを通し、課題共有の機会にも活用しています。



職場・ラインの責任者としての知識習得に取り組んでいます

私の \ CHALLENGE /

雪印メグミルク(株) 人事部 人事労務グループ 黒田 弥里(中央)

皆さんにとって身近な頼れる存在になれるように、
労務の勉強がんばります!



地域・社会との きずなを深める取組み

雪印メグミルクの食育活動

健康で笑顔あふれる生活のために

雪印メグミルクでは、消費者重視経営の7つの取組みの一つとして、食育・普及活動「乳の食育 雪印メグミルク食コミュニティ」を展開しています。「食の大切さと尊さ」、「牛乳・乳製品の価値」を子どもたちやお客様・消費者にお伝えし、「食」を通して人々の健康で笑顔あふれる生活を応援します。

「乳の食育」を通して伝えたいこと

食の大切さと尊さ

- ① 食べることは私たちにとって極めて大切であり、特にバランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にすること。
- ② 食べものは自然の恩恵を受けた尊い資源であること。すべての食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて、自分たちの生をつないでいること。

牛乳・乳製品の価値

- ① 牛乳・乳製品は、日本人に不足しているカルシウムを効果的に補う食品である。
- ② 牛乳・乳製品は「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる食べものである。
- ③ 牛乳・乳製品は、乳牛の「命の恵み」を原料として「牧場(酪農)」や「工場(製造工程、品質管理)」などの現場を経て消費者に届けられ、そこに関わる人々によって大切に作られた食べものである。

「食の大切さと尊さ」を学ぶ5つの大切なポイント

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養うため「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクは、そのために右の5つが大切なポイントであると考えています。



牛乳の大切さを伝えます [小中学校への食育出前授業]

食育活動の一環として、小中学校への食育出前授業を、2014年度は全国の小中学校241校、490クラス、17,937名の生徒・保護者などを対象に行ないました。



お子様にもわかりやすく
牛乳・乳製品の大切さをお伝えします



食育出前授業 実施校一覧
<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/class/list.html>

牛乳・乳製品の魅力を感じていただきます [各種セミナー]

社会人や学生などを対象として、「チーズセミナー」や「ヨーグルトセミナー」、「骨・カルシウムセミナー」などさまざまなセミナーを開催し、2014年度は全国で19,732名の方にご参加いただきました。



熱心に話を聴く参加者の皆さん



セミナーのお申し込み
<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/h-seminar.html>

牛乳・乳製品のおいしさと楽しさをご紹介します[料理講習会]

親子料理教室やPTA行事など、さまざまな方を対象に牛乳・乳製品を使った料理講習会を開催し、2014年度は全国で5,401名の方にご参加いただきました。



おいしい料理を作りながら、
親子の会話がはずみます



料理講習会のお申し込み
<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/cooking.html>

私の CHALLENGE

雪印メグミルク(株)
九州統括支店 乳食品2課 村上 茉璃奈



地域・社会への取り組み

スキージャンプを通してスポーツ振興に貢献しています

雪印メグミルクでは、スキー部の活動と各種スキージャンプ大会への協賛を通してスポーツの振興に貢献しています。

若手ジャンパーの登竜門とされている「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」(毎年1月開催)では、男女中学生を対象に「特別奨励賞」を贈呈しています。さらに、小中



全日本ジャンプ大会

学生のジュニアジャンパーの活躍の場を増やすために2011年より、「雪印メグミルク杯ジュニアサマージャ



ジュニアサマージャンプ大会



齋藤前監督によるミニクリニック

ンプ大会」に協賛し、2014年は新たに、齋藤前スキー部監督(現・広報部課長)が子ども達を対象にミニクリニックを実施しました。これらの活動を通して、より多くのジュニアジャンパーを応援していきます。

牧場でのふれ合いを こどもの国牧場まつり

2014年11月2日(日)と、3日(祝・月)に、恒例の横浜市「こどもの国、牧場まつり」に参加しました。当日は、翌年の干支にちなみ、「羊レース」や「羊と記念撮影」などを実施。

牧場の一番人気「搾乳体験」や「バター作り」はもちろん、雪印種苗の球根や野菜の種の配布、すっかり恒例となった「四つ葉のクローバー」探しが人気でした。



雪印メグミルクの新商品「雪ミルク」を試飲配布で積極的に配布。雨天予報から一転晴れとなって、大勢のお客様にお楽しみいただきました

子どもたちの心と身体の成長を願って 雪印メグミルクファミリーミュージカル

2014年8月、「第29回雪印メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を大阪にて開催しました。子どもたちの健やかな心と身体の成長に貢献したいという願いで毎年開催しています。



2014年も3回の公演に多くのご応募をいただき、2,400名のお客様にステージをお楽しみいただきました。

雪印メグミルクカップ全国レディース大会に毎年協賛しています 参加選手に対する栄養講座を実施しました



熱戦がくり広げられました

2014年5月3日～5日、第27回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ全国レディース大会2014が、長野県上田市菅平高原にて開催されました。

本大会は、女子サッカーとしては日本最大級の大会であり、これまでも日本代表選手を数多く輩出。今年も全国から70ものチームが集い熱戦が繰り広げられました。

また、今年は初めての試みとして、希望者へ「スポーツ

と食事」と題したミニセミナーを行なった他、歓迎レセプションの中で、齋藤前スキー部監督(現・広報部課長)よりアスリートの立場から食事について語り、大会を通じてスポーツにおける食事の大切さを発信しました。



ミニセミナー「スポーツと食事」

私の \ CHALLENGE /

雪印メグミルク(株) 広報部広報グループ 齋藤 浩哉

スキー部の活動とスポーツの素晴らしさを 社内・社外に発信して盛り上げます。



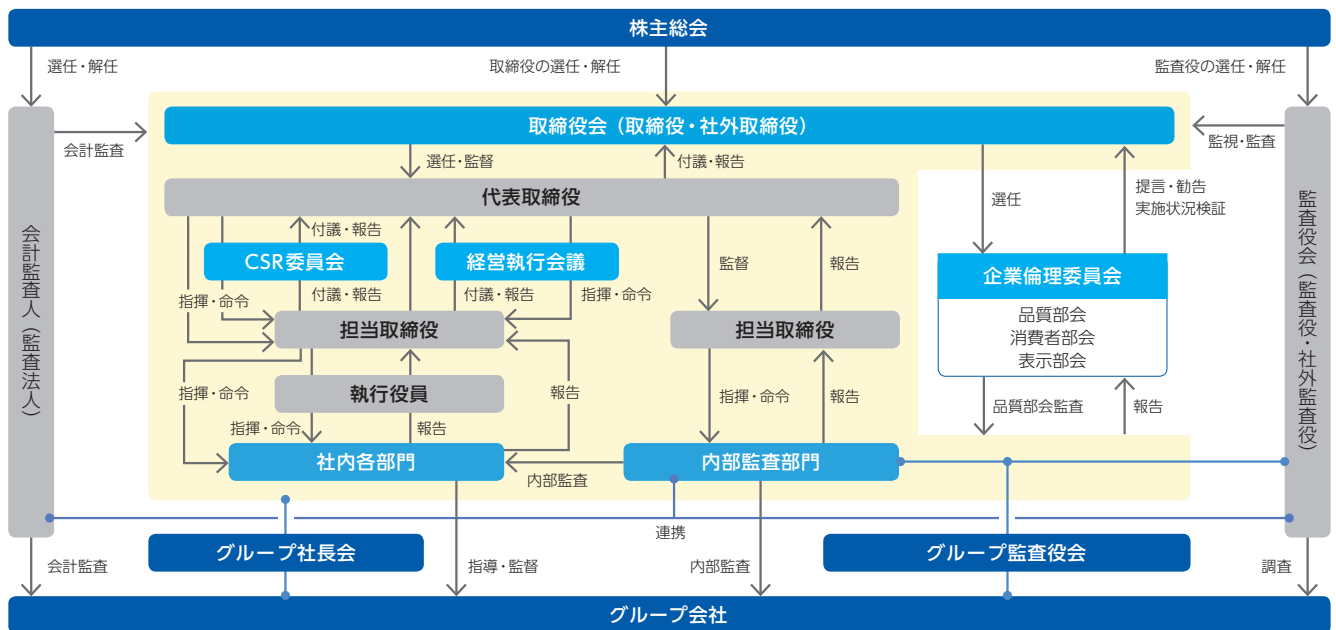
コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

外部有識者を構成メンバーに加えた企業倫理委員会の設置、社外取締役の選任などにより、経営に対する監視・監督機能の強化を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



企業倫理委員会 ― 社外の目 ―

企業倫理委員会は、社外の有識者・労働組合代表および社内委員によって構成されています。この委員会は取締役会の諮問機関として、原則毎月1回の定例委員会を開催しています。そこでは、経営全般に対する「社外の目」による検証や提言がなされ、それらは経営に活かされています。なお、企業倫理委員会には、品質部会、消費者部会、表示部会の3つの専門部会があります。

第6期企業倫理委員会・
専門部会 委員一覧

PAGE
45



企業倫理委員会

私の \ CHALLENGE /

雪印メグミルク(株)
首都圏北支店 市乳課 大貫 遊



誰よりもお客様・取引先に愛されるメーカーを目指しながら
売上・利益の最大化を追求します。

品質・衛生管理の徹底を監査しています【品質部会】

工場の品質管理、衛生管理の徹底およびレベルアップを目的として、その道のエキスパートである専門委員が実際に工場へ赴き、監査を実施するとともに、現場担当者との意見交換などを行なっています。工場では、監査での指摘事項や推奨事項に対して改善策を取りまとめ、企業倫理委員会への報告を行なっています。



厳しい目でチェックがなされています

消費者重視経営を実践する取組み【消費者部会】

消費者部会では、企業理念の3つの使命の1つである「消費者重視経営」を実践するために社外の声を傾聴し、その声を経営に反映させていこうとする取組みを行なっています。部会では、消費者団体の代表者の皆様に雪印メグミルクグループの取組みを伝え、消費者目線での評価と貴重な意見をいただいています。

2014年度は前年に引き続き「協働取組み」を実施しました。関東では「生乳について知識を深める」、関西では「乳酸菌について知識を深める」をテーマに工場見学、酪農家訪問などの取組みを行ないました。そして取組み内容について、消費者団体の皆様と協働でコンパクトなパンフレットにまとめ、食育などの場で活用できるようにしました。

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧

PAGE 46



関東：酪農家を視察しました



関西：乳酸菌セミナーを行ないました



協働取組みの成果としてパンフレットを制作しました

消費者視点で表示の確認を行なっています【表示部会】

商品パッケージなどの表示は、私たちと消費者をつなぐ最も重要な情報の一つであると考えています。

表示部会では、消費者視点で商品パッケージなどの表示の点検・確認を行ない、問題があるものについては、会社に提言し改善しています。

またパッケージおよび販促物の表示について当社が独自に定める任意表示マニュアルの改訂にも携わっています。また、今後食品表示基準の改訂に対して助言を行なっていく予定です。



消費者にとってよりわかりやすい表示にしていけるために熱心な議論がなされています

私の CHALLENGE

(株)YBS 総務部 総務グループ 清水 和紀

現状に満足せず、変化することを楽しみながら仕事も人生も取り組みます！



CSR推進に向けた取組み

雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準

雪印メグミルクグループ行動規範は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的にして、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループの各社

が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの役員・従業員は行動規範と自主行動基準を全ての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切に、誰からも信頼されるように行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行ないます。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動 ～雪印の事件を風化させない～

「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」は、当社の前身のひとつである雪印乳業グループが起こした2つの事件（「雪印乳業食中毒事件」、「雪印食品牛肉偽装事件」）の本質的問題を常に認識して教訓とし、風化させないため、そして食品を扱う会社の役職員として、食の責任を強く認識し果たしていくことを誓うために、毎年、2つの事件が発生した6月と1月に実施しています。

2014年度は6月に、雪印乳業食中毒事件について、日和佐社外取締役の司会進行のもと5名の社員が当時感じたこと、今すべきことなどをパネルディスカッションで熱く語り合い、事件の経験者、未経験者を問わず、決して風化させないことを心に刻みました。

1月には、「フードチェーンにおける食品の安全」について日本食品分析センター学術顧問の一色賢司先生の講演を行ないました。



本社統一活動は6月、1月に実施しています



5名の社員が事件当時の想いを熱く語りました



2つの事件について

PAGE
46

日本食品分析センター学術顧問、一色先生に、食品の安全についてわかりやすく講演いただきました

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役職員は、雪印メグミルク行動基準を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長はCSR担当役員に提出します。

代表取締役3名の宣誓書



私の \ CHALLENGE /

雪印種苗(株)
経理部 経理課主任 高橋 麻衣子



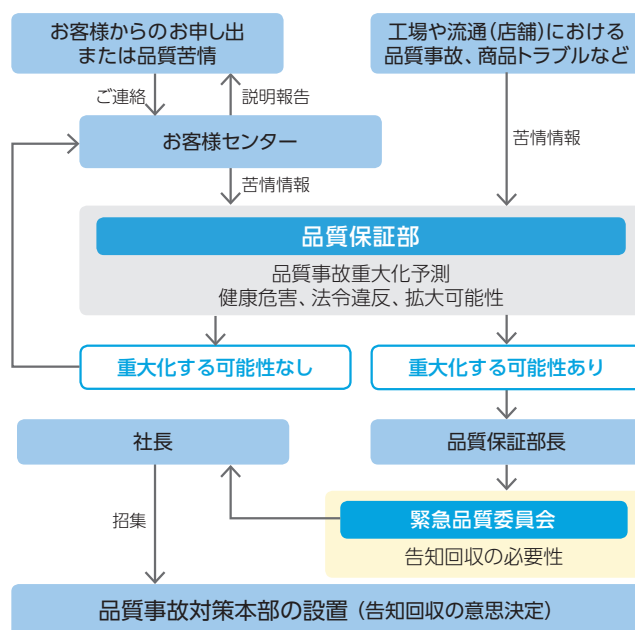
毎日、たくさんの人に助けってもらいながら、明るく元気に、仕事・育児を奮闘中!
時間と気持ちに余裕ができたなら、「奮闘中!」の人を助ける行動がとれる人間になりたいです。

リスクマネジメント体制

品質事故の対応

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。日々のお客様からのお申し出はお客様センターに一元化されます。その内、商品の品質に関わる情報は、品質保証部に伝えられます。同様に工場・店舗からの苦情情報も全て品質保証部に集約されます。その情報の中に健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるかと判断された場合には、緊急品質委員会を開催します。緊急品質委員会では、お客様の健康危害を最小限にとどめることを第一の目的とし、告知回収の必要性を含め、対応を検討します。その後、社長を対策本部長とする品質事故対策本部で告知回収の最終決定をします。

危機管理体制（品質事故対応）



内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外（弁護士）ホットライン」を併設しています。2つのホットラインとも、公益通報および公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

当社グループ各社では、機会あるごとに「ホットライン」の活用を呼びかけています。

ホットライン通報件数の推移

内容	2010		2011		2012		2013		2014	
	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外
人間関係について	10	0	8	0	7	2	11	1	2	1
品質について	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
風土改革について	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
コンプライアンスについて	8	1	8	1	3	1	5	1	3	0
職場での問題行動について	5	0	6	0	1	0	5	0	18	1
社内制度や仕組みへの疑問	6	1	9	0	4	1	3	0	11	1
その他	5	1	3	1	2	0	6	0	4	0
合計	35	4	34	2	20	4	30	2	38	4

社内：雪印メグホットライン〔グループ社内通報相談窓口〕
社外：社外（弁護士）ホットライン〔社外通報相談窓口〕

商品の安定供給

雪印メグミルクグループは、東日本大震災の後、広域に及び激甚災害が発生した場合を想定し、そのような中でもお客様へ商品・サービスをお届けするための仕組みを構築しています。

- 被災状況をより迅速かつ詳細に把握するために、現行の通信手段に加えて新たな通信手段を導入しています。
- 事業を継続するために必要な重要業務を担当する事業所が被災した場合は、重要業務の早期再開に向けて、被災していない事業所での代替対応手順を明確化しています。
- 商品の製造に必要な原材料は、供給拠点の複数化や代替品の調達などに向けた体制を整えています。
- 商品の輸送については、交通インフラおよび取引先の被災状況の把握に向けた連絡体制を構築するとともに、配送要員・車輛・燃料確保に向けた体制を整えています。

私の CHALLENGE

ニチラク機械（株）
技術部

岡田 芙希子

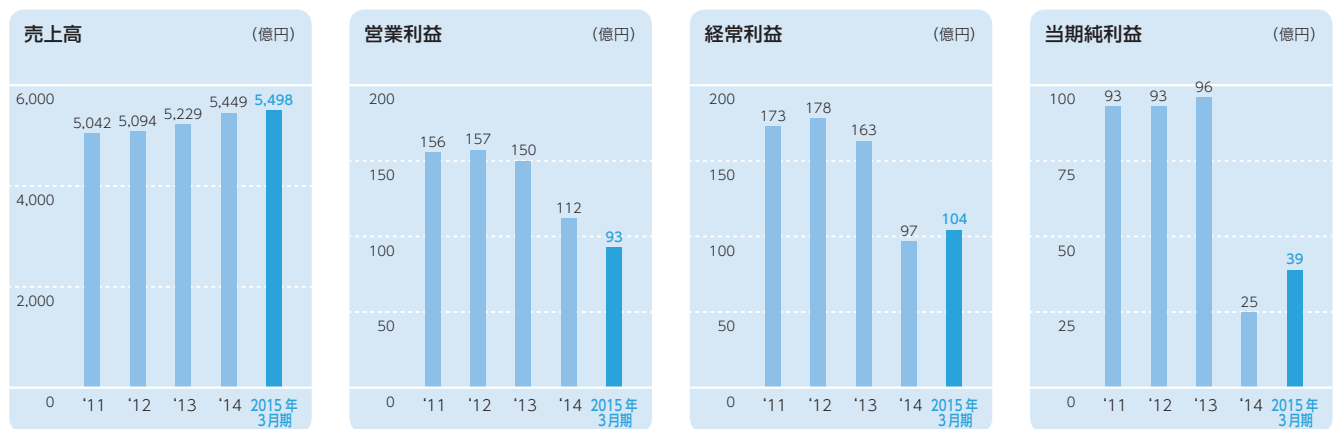
様々な現地工事を経験し、技術のレベルアップに繋がりたいです！



雪印メグミルクグループの概要

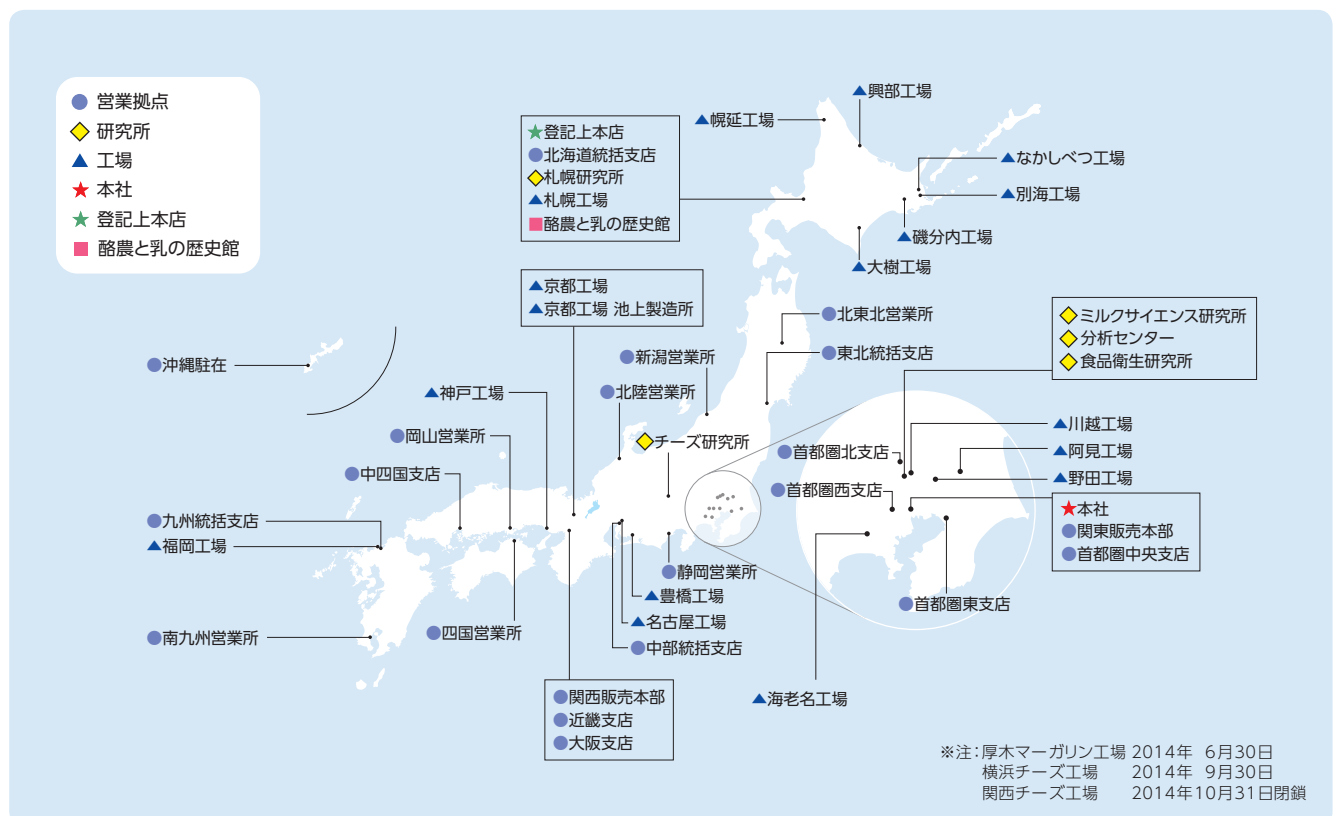
商号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.	設立年月日	平成21年(2009年)10月1日
事業内容	牛乳、乳製品および食品の製造・販売等	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 西尾 啓治 平成27年(2015年)4月1日就任
本店所在地	(登記上本店) 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (本社) 東京都新宿区本塩町13番地	資本金	200億円
		決算期	3月31日

連結経営成績

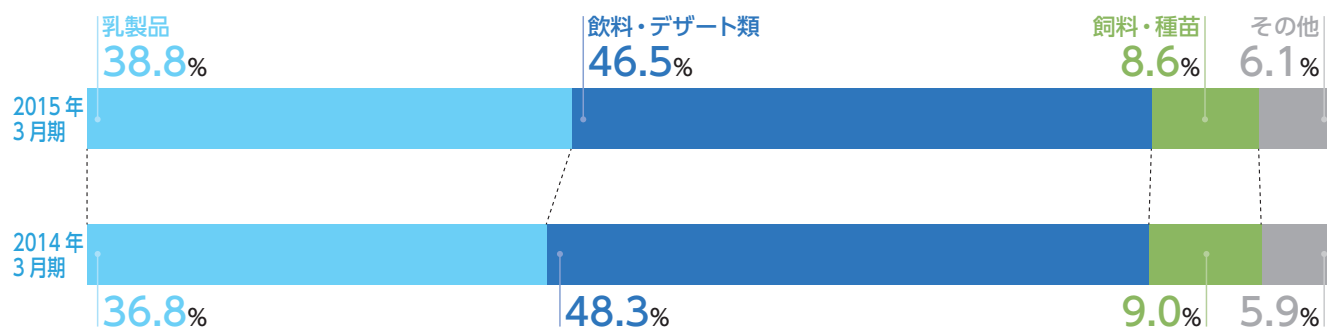


雪印メグミルク事業所一覧

(2015年3月31日現在)



品目別売上構成(連結)



事業内容について

事業内容および事業の種類別セグメントは、下表のとおりです。

	主な製品	会社
乳製品事業 	■ 乳製品 (チーズ・バター・粉乳等) ■ 油脂(マーガリン等) ■ 育児品 (乳児用粉乳等)	雪印メグミルク(株) / ビーンスターク・スノー(株) / ハケ岳乳業(株) / 甲南油脂(株) / チェスコ(株) / (株)エスアイシステム / 雪印オーストラリア(有) / 台湾雪印(株) / 三和流通産業(株) / 雪印タイ(株) / イーエヌ大塚製菓(株) / 協同乳業(株) (合計12社)
飲料・デザート類事業 	■ 飲料 (牛乳類、果汁飲料等) ■ ヨーグルト、デザート類	雪印メグミルク(株) / ハケ岳乳業(株) / (株)エスアイシステム / いばらく乳業(株) / みちのくミルク(株) / 三和流通産業(株) / 協同乳業(株) (合計7社)
飼料・種苗事業 	■ 牛用飼料、 牧草・飼料作物種子 ■ 野菜種子等	雪印種苗(株) / 道東飼料(株) (合計2社)
その他事業 	■ 不動産賃貸 ■ 共同配送センター事業等	雪印メグミルク(株) / (株)フレスコ / (株)雪印パーラー / (株)YBS / (株)エスアイシステム / ニチラク機械(株) / (株)ロイヤルファーム / (株)RFベンケル牧場 / (株)RF青森牧場 / 三和流通産業(株) / 直販配送(株) / 北網運輸(株) / 日本ポート産業(株) / 日本乳品貿易(株) / (株)アミノアップ化学 (合計15社)

雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

(2015年3月31日現在)

雪印メグミルクグループグループ会社紹介と 各社CSRリーダーからのメッセージ

CSRの確立に向けて、グループ各社でも
CSRリーダーを中心にCSR活動を推進しています。

雪印種苗(株)

設立	昭和25年12月
資本金	4,643百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	川成 眞美



事業内容 種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究



人事総務部
総務課長
山崎 伸明

全ての行動の規範である「雪印種苗行動基準」を一人ひとりに浸透・定着をテーマに、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)においてバランス良く活動し、農業振興と環境保全に貢献します。

ハケ岳乳業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	60百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	長野県茅野市
代表者	藤田 昭雄



事業内容 牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業



経営管理部部長
菅井 崇文

1954年創業以来、「安全・安心」をモットーに努力研鑽を積み重ねてきました。「ハケ岳の自然を、そのままご家庭へ」、ハケ岳乳業はより良い食文化の創造を目指していきます。

いばらく乳業(株)

設立	昭和34年1月
資本金	118百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	茨城県水戸市
代表者	長谷川 敏



事業内容 牛乳・乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売



製造第1課長
後藤 昭行

1959年創業以来、「健康・安全」に心がけ食文化の向上・発展を目指し、「いばらく」に集う人々との調和・つながりを大切にしながら社会貢献に取り組んでいます。

チエスコ(株)

設立	昭和32年3月
資本金	472百万円
グループ計持株比率	90.9%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	本村 直之



事業内容 ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売



取締役
管理本部長
佐藤 祐一

世界からの美味しいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチエスコの使命です。厳選したナチュラルチーズをとり揃え、全国のショップで皆様のお越しをお待ちしております。

直販配送(株)

設立	昭和55年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都渋谷区
代表者	田邊 良一



事業内容 共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業



CSR推進部長
忍田 行廣

CSR経営の全社取組みを進めるとともに、チルド物流35年の経験を活かし、安心品質の物流で、信頼と満足をお届けします。

(株) クレスコ

設立	昭和23年8月
資本金	38百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都北区
代表者	佐野 和生



事業内容 食品資材・軟包装・紙器・容器などの仕入販売



取締役
管理部長
阿部 潤一

当社は、60余年の包装資材の取扱いで培った知識やノウハウに基づいて、経済や環境へ配慮した提案を継続的にかつ誠実にこなうことで、社会に貢献していきます。

(株) エスアイシステム

設立	平成9年1月
資本金	400百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	佐藤 佳嗣



事業内容 チルド・フローズンを中心としたパンダー、マーチャダイジングと共配センター運営事業



管理部長
町田 良克

CSR活動は従業員一人ひとりの理解と協力が不可欠と考えており、社内報でのCSRに関する情報発信や、CSR社内集合研修を実施するなど普及・促進に取り組んでいます。

雪印オーストラリア(有)

設立	平成4年12月
資本金	22百万A\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	田淵 英司



事業内容 育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入



管理部長
米栖 淳

雪印メグミルクグループの知識を結集して作られた粉ミルクやチーズを製造し、アジア・豪州に安心・安全な商品をお届けすることで社会に貢献いたします。

みちのくミルク(株)

設立	平成8年10月
資本金	467百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義



事業内容 牛乳・乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売



取締役
総務部長
庄子 慶之

当社では、工場見学者の受け入れを積極的に行なっております(年間約4千名)。また、毎年地元で開催される「牛乳消費拡大キャンペーン」等に参画し牛乳およびデザートを提供しております。

三和流通産業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	450百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹島 昭一
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業



取締役
業務部長
西口 幸雄

当社は1954年創業以来、安心して楽しく召し上がっていただくチルド商品を提案しお届けしてきました。これからも、お客様の喜顔を通して社会に貢献してまいります。

ニチラク機械(株)

設立	昭和29年4月
資本金	50百万円
グループ計持株比率	67.6%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	大岡 実
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス



総務部 次長
野田 竜介

「酪農・乳業への貢献」を目的として、六次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しているエンジニアリング会社です。

(株)ロイヤルファーム

設立	平成13年2月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	48.5%
本社所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男
事業内容	肉用牛の生産・販売



取締役業務部長
兼指導部長
櫻井 孝夫

「安全で安心の出来る美味しい牛肉」の生産を目指し取り組んでいます。

ビーンスターク・スノー(株)

設立	平成14年8月
資本金	500百万円
グループ計持株比率	80.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	平田 公孝
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売



取締役
高木 宏尚

安心してお使い頂ける粉ミルクの提供を柱に、機能性食品など新たなご期待にもお応えし、乳の価値を高めて世の中のお役に立てるよう事業活動に取り組んで参ります。

グリーンサービス(株)

設立	昭和55年11月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都調布市
代表者	菅原 尚則
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業



取締役
業務部長
佐藤 勇

殺菌乳輸送を始めて20年、ユーザーに 応えるべくISO9001を取得。また全車にドライブレコーダーを搭載して、エコドライブ、事故防止に役立っています。

(株)雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	手島 隆二
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営



総務企画部長
山口 雅也

今年、開園50周年を迎える当牧場は、牛をはじめとする沢山の動物たちに囲まれ、子供たちの歓声や赤ちゃんの泣き声に包まれて、知らず知らずのうちに癒される空間となっています。

台湾雪印(株)

設立	平成4年12月
資本金	7百万NT\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	台北(台湾)
代表者	小原 康嗣
事業内容	育児用粉乳、乳製品等の輸入・販売



経理
(台湾では部長の意)
楊 文海

法規遵守だけでなく+αの取組みを心がけています。最近では再生紙販促物などを使用し、更にCO₂の減少に取り組んでいます。

(株)雪印パーラー

設立	昭和36年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	小川 澄男
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売



管理部長
首藤 俊昭

お客様満足度向上のため、定期的に社内での従業員研修を行っています。また、社外での研修(接客・クレーム対応等)にも積極的に参加しています。

甲南油脂(株)

設立	平成4年7月
資本金	100百万円
グループ計持株比率	51.0%
本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	岡田 佳男
事業内容	マーガリン類等の製造販売



総務部長
川畑 誠一郎

阿見工場が操業開始して甲南油脂の役割も若干変わっていくものと思われますが、今後もさまざまなチャレンジでグループ会社の一員として貢献したいと考えています。

(株)YBS

設立	昭和46年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	西馬場 茂
事業内容	ビルの総合保守管理、建築業務、損害保険代理業、営業・管理・生産品質等の各種ビジネスサポート業務



常務取締役
町田 幸司

事業所周辺の清掃活動、ペットボトルキャップの回収、本社照明のLED化、清掃業務での知的障がい者インターンシップ受け入れ等、業務に直結した社会貢献を推進しています。

道東飼料(株)

設立	平成13年7月
資本金	300百万円
グループ計持株比率	60.0%
本社所在地	北海道釧路市
代表者	橋場 義孝
事業内容	配合飼料の製造・販売



品質管理担当
今田 裕之

常に安全・安心で高品質な養牛用飼料・代用乳を生産して畜産農家にお届けし、安心しておいしい牛乳・牛肉を生産して頂けるよう日々全社員一丸となって頑張っております。

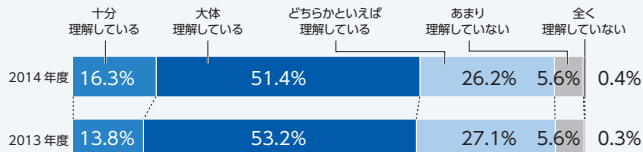
ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比

2010年11月に発行されたCSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引」に掲げられている7つの中核主題ごとに「活動報告書2015」に掲載している取組内容を整理しました。

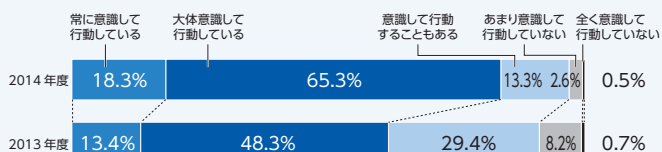
7つの中核主題	当社取組み内容	
1. 組織統治	雪印メグミルクグループ企業理念	P1
	コーポレート・ガバナンス体制	P5、35
	企業倫理委員会の設置	P35、36、45、46
	CSR経営に関する従業員アンケート	P6、44
2. 人権	人事基本方針	P31
3. 労働慣行	人材育成研修の実施	P31、32
	女性活躍推進に向けた取組み	P32
	内部通報制度の設置と運営	P38
4. 環境	環境方針の策定	P25
	環境マネジメント体制	P25
	ISO14001 認証の取得・継続	P26、30
	環境監査の実施	P26
	CO ₂ 排出量とエネルギー使用量の削減	P27
	廃棄物・食品廃棄物の削減とリサイクルの推進	P27
	環境保全活動紹介	P29、30
5. 公正な事業慣行	雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準の策定	P37
	CSRグループ活動の実施	P6
	「食の責任を強く認識し、果していくことを誓う日の活動」の実施	P37
6. 消費者課題	雪印メグミルク品質保証方針の策定	P20
	雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)の構築と運用	P20
	危機管理体制(商品事故発生時の対応)の構築	P38
	企業倫理委員会 品質・消費者・表示部会	P35、36
	お客様センターの設置と運営	P20
	お客様満足向上ミーティングの開催	P21
	お客様モニター制度の実施	P21
	食育活動紹介	P33
	酪農と乳の歴史館、工場見学の実施	P12、14、18、44
7. コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	酪農生産への貢献	P15-18
	地域・社会との取組み紹介	P34
	スポーツ振興への取組み	P34
	雪印こどもの国牧場の運営	P34

雪印メグミルク「CSR経営に関する従業員アンケート」結果(抜粋)

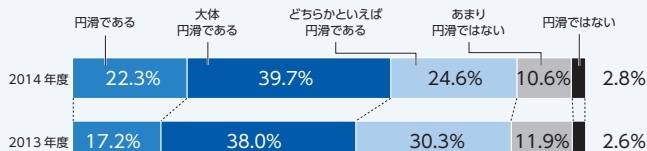
Q. あなたは「雪印メグミルクグループ企業理念」を理解していますか？



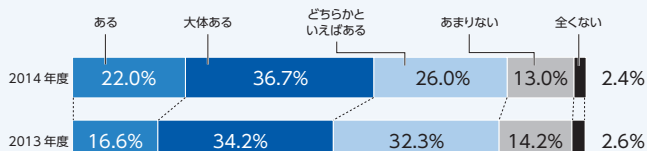
Q. あなたは「雪印メグミルク行動基準」を意識して行動していますか？



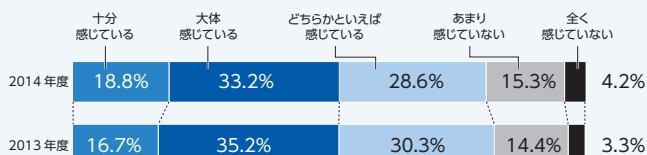
Q. あなたの職場のコミュニケーションは円滑ですか？



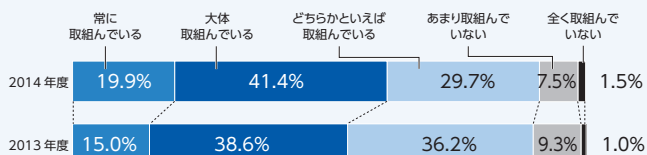
Q. あなたの職場では、誰もが自由に疑問等を問題提起できる雰囲気がありますか？



Q. あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか？



Q. あなたは、MSQSのしくみに基づいて品質管理の徹底に取り組んでいますか？



アンケート結果(%)は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

酪農諮問委員会 委員一覧

任期：2014年4月1日～2016年3月31日

諮問委員	まつした たかゆき 松下 隆之	元JA道東あさひ 理事、酪農生産者
	くろさわ かんじゅ 黒沢 寛寿	元全国酪農青年女性会議 顧問、酪農生産者
	まつお ようじ 松尾 要治	元全国農業協同組合連合会 酪農部長
	すすき のぶひろ 鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
	やさか まさみつ 矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科 准教授
	こばやし しんいち 小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授

見学いただける工場・歴史館の連絡先

日本の酪農・乳業 に関わる史料	雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 TEL：011-704-2329
牛乳類・飲料・ はっ酵乳	雪印メグミルク(株)札幌工場 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 TEL：011-704-2329 (受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で行なっています。)
ナチュラル チーズ	雪印メグミルク(株)なかしべつ工場 北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地 TEL：0153-72-3281
ナチュラル チーズ	雪印メグミルク(株)大樹工場 北海道広尾郡大樹町緑町35 TEL：01558-6-2121
牛乳類・ デザート	みちのくミルク(株)本社工場 宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1 TEL：0229-72-2011
プロセスチーズ・ マーガリン	雪印メグミルク(株)阿見工場 茨城県稲敷郡阿見町星の里22番地 TEL：029-829-5236
牛乳類・飲料・ はっ酵乳	雪印メグミルク(株)野田工場 千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1 TEL：04-7122-2246
牛乳類・飲料・ はっ酵乳	雪印メグミルク(株)海老名工場 神奈川県海老名市中新田5丁目26番1号 TEL：046-240-6300
デザート・ クリーム	雪印メグミルク(株)豊橋工場 愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79 TEL：0533-78-3711
牛乳類・ はっ酵乳	雪印メグミルク(株)京都工場 京都府南丹市八木町美里紫野1番地 TEL：0771-43-2150
牛乳類・飲料・ はっ酵乳	雪印メグミルク(株)京都工場 池上製造所 京都府南丹市八木町池上古里1番1 TEL：0771-42-6871
牛乳類・ 飲料	雪印メグミルク(株)神戸工場 兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1 TEL：078-912-2121

●工場・歴史館の見学のご案内

工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。

第6期
企業倫理委員会・専門部会委員一覧

肩書きは2015年3月31日現在

社外委員	えざわ いুক 江澤 郁子	日本女子大学名誉教授	企業倫理委員会委員長 医学博士・栄養学の 有識者
	ひわさ のぶこ 日和佐 信子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	雪印メグミルク(株) 社外取締役
	あなん ひさ 阿南 久	元 消費者庁長官 元 全国消費者団体連絡会 事務局長	消費者関連の有識者
	かわぐち ひろのり 河口 洋徳	経営倫理実践研究センター 専務理事	企業倫理の有識者
	たかや さとし 高谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質の専門家
	おざわ りえこ 小澤 理恵子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター 部長スタッフ	消費者関連の有識者
	こばやし としお 小林 俊夫	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
労働組合	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の有識者
	とおやま じろう 遠山 二郎	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	いしだ たかひろ 石田 隆廣	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・秘書室・人事 担当
	つちおか ひであき 土岡 英明	取締役執行役員	CSR・広報・ 広域営業 担当
	えんどう さとる 遠藤 悟	取締役執行役員	生産統括・生産管理 副 担当(生産統括部長 委嘱)

1. 企業倫理委員会・品質部会委員

肩書きは2015年3月31日現在

社外委員	たかや さとし 高谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	さとう くにひろ 佐藤 邦裕	元 日本生活協同組合連合会 本部長スタッフ 品質管理担当	品質部会委員専任
	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会 委員兼任
社内委員	さいとう けんいちろう 齋藤 健一郎	品質保証部副部長	表示部会委員兼任

2. 企業倫理委員会・消費者部会委員

肩書きは2015年3月31日現在

社外委員	ひわさ のぶこ 日和佐 信子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	消費者部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	あなん ひさ 阿南 久	元 消費者庁長官 元 全国消費者団体連絡会 事務局長	企業倫理委員会 委員兼任
社内委員	つちおか ひであき 土岡 英明	取締役執行役員	企業倫理委員会 委員兼任

3. 企業倫理委員会・表示部会委員

肩書きは2015年3月31日現在

社外委員	おざわ りえこ 小澤 理恵子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター部長スタッフ	表示部会長 企業倫理委員会委員兼任
	いたくろ ゆか子 板倉 ゆか子	消費生活アナリスト・放送大学 非常勤講師 元国民生活セン ター商品テスト部調査役	表示部会委員専任
	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会 委員兼任
社内委員	こにし ひろあき 小西 寛昭	取締役執行役員 研究開発部長委嘱	表示部会委員専任
	さいとう けんいちろう 齋藤 健一郎	品質保証部副部長	品質部会委員兼任
	さかぐち こうじ 坂口 高司	CSR部長	表示部会委員専任

● 2015年度「企業倫理委員会提言」

2015年度のスタートに際し、企業倫理委員会として下記の通り提言いたします。

1. 全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、コンプライアンス確立に向け、以下の項目に取り組みましょう。
 - (1) 社内のコミュニケーションを深めるように意識し、工夫しましょう。
 - (2) 一人ひとりが積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある職場をつくっていきましょう。
 - (3) 「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践していきましょう。
 - (4) 多くの女性従業員がいきいきと活躍できるよう環境を整備し、女性の活躍を推進していきましょう。
2. 専門部会(品質部会・消費者部会・表示部会)の提言は、下記の各部会からの提言を参照願います。

● 2015年度「品質部会提言」

1. 品質トラブルおよび品質苦情の共有化を図り、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。
2. 従業員一人ひとりの製造技術、保全技術、衛生管理、検査分析技術のレベルアップが必要です。そのため、本社での研修とeラーニングを効果的に実施し、工場での後継者育成を見据えた教育・研修を充実させましょう。
3. 5Sは品質管理の基本であり、5Sガイドラインの内容にそった活動を全員参加で継続して取り組みましょう。また、グループ全体のレベルアップを図りましょう。

● 2015年度「消費者部会提言」

雪印メグミルクは、消費者重視を経営の基本のひとつに位置づけています。

その観点から、下記の項目を着実に実行していきましょう。

1. 重要なステークホルダーである消費者との対話(ダイアログ)の場である消費者部会の充実・発展を図り、企業と消費者との協働による取組みを継続させましょう。
2. 引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実にこたえていきましょう。また、消費者が知りたい情報を効果的に届ける情報発信を継続していきましょう。

● 2015年度「表示部会提言」

～ 消費者の適切な商品選択に資するために ～

1. 商品の表示や広告等では、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、「商品パッケージ任意表示基本マニュアル」に従い、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。
2. 新しい「食品表示法」の食品表示基準に、適切かつ速やかに対応しましょう。今後も、事業者として実情を踏まえ、意見を表明していきましょう。
3. 商品の表示や広告等での表現は、消費者重視経営を実践していく姿勢を示すものです。誤認や誤解を与えない正確な表示に取組んでいることを社内外に向けて、伝えていきましょう。

● 企業倫理委員会実施状況

対象期間：2014年4月～2015年3月

1. 定例委員会(12回)

(1) 主な討議事項

- ・2014年度企業倫理委員会提言内容について
- ・商品表示(宅配商品、飲料・ヨーグルト・デザート他)改善提言事項について
- ・「雪印メグミルクグループ活動報告書2014」構成、内容について
- ・「雪印メグミルク株式会社CSR経営に関する従業員アンケート」内容と結果対応について
- ・「雪印メグミルクグループCSR社員アンケート」内容と結果対応について
- ・「酪農生産への貢献」について

(2) 主な報告事項

- ・経営概況報告(四半期毎)
- ・CSR委員会実施内容(第10・11・12回)
- ・「食の責任を強く認識し、果していくことを誓う日の活動」の実施内容
- ・商品の社告・自主回収の実施について
- ・第5期お客様モニターの実施について
- ・企業倫理委員会提言に対する取組み状況について

(3) 月次定例報告事項

- ・部会実施報告(品質部会、消費者部会、表示部会)
- ・苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
- ・広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
- ・CSRグループ活動実施概要
- ・ホットライン通報状況および対応状況について

PAGE
36

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧

団体名 50音順

関東	関西
主婦連合会	NPO法人京都消費生活有資格者の会
全国消費者団体連絡会	NPO法人コンシューマーズ京都
全国消費生活相談員協会	関西消費者協会
東京都消費者団体連絡センター	全大阪消費者団体連絡会
東京都消費者月間実行委員会	なにわの消費者団体連絡会
東京都地域婦人団体連盟	奈良県生活協同組合連合会
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	日本消費経済新聞社
日本生活協同組合連合会	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 西日本支部

雪印メグミルクグループの「活動報告書2015」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2015」をご覧いただき、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

PAGE
37

2つの事件について

● 雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で製造された脱脂粉乳が停電事故で汚染され、それを再溶解して製造した脱脂粉乳を大阪工場で原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えてしまいました。

● 雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を偽って、国産牛肉として申請し、交付金を不正に受給したもので、明らかな詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

人事データ

2015年3月31日現在

	2013年度	2014年度	範囲または時点
社員数(連結)	4,917名	4,875名	連結会社計
社員数(単体)	3,130名	3,091名	
男性	2,712名	2,677名	雪印メグミルク(株)
女性	418名	414名	
女性管理職	12名	13名	雪印メグミルク(株)
女性管理職比率	1.73%	2.0%	(出向者を含む)
平均年齢	39.5歳	39.4歳	雪印メグミルク(株)
平均勤続年数	12.1年	12.4年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.87%	1.98%	雪印メグミルク(株)
育児休業利用者	34名	29名	
内育児休業男性社員利用者	4名	4名	
子育て支援休業利用者	33名 (のべ153日)	35名 (のべ97日)	2014年度利用者数 雪印メグミルク(株) (出向者を含む)
看護休暇制度利用者	63名 (のべ271日)	80名 (のべ361日)	
短時間勤務制度利用者	24名	33名	

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

● 雪印メグミルク お客様センター

0120-301-369 (9:00～19:00 年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開いたします。

● CSRの確立に向けて > 活動報告書

<http://www.meg-snow.com/csr/report/>

ステークホルダーメッセージ

「車の両輪関係」が 末永く続くことを願っています

関東生乳販売農業協同組合連合会は国内生乳生産量の約15%を生産する生産者組織です。本会生産量の13%を取引いただく御社は、関東地域の酪農家にとってたいへん重要な乳業者となっています。

わが国の食品産業の多くは、食生活の国際化、特に洋風化にともなって成長してきましたが、近年では原材料の調達においても国際化、つまり海外依存度を急速に高めています。乳業の成長も食生活の洋風化に負うところが大きですが、乳業は国内酪農との関係を重要視し、食品産業の中で独自の成長路線を歩んできました。このような酪農・乳業の関係、いわゆる「車の両輪関係」が、今後とも末永く続くことを願っております。

世界に目を向けてみると、中国をはじめとし新興市場における牛乳・乳製品の需要量、特に乳たんぱく質に対する強い需要が推進力となり、乳製品需要は増大することが予測されます。また、世界の生乳生産は8億トン生産されていますが、貿易量は全生乳生産量の9%程度と底が浅い現状です。昨年の生乳需給をみると、バターが市場から消えた等、残念ながら生産基盤の弱体化が進んでいる現状にあります。

また、2015年3月設定された新酪肉近[※]では、近い将来、わが国の牛乳等向けと加工向けの生乳需要量が逆転すると予測しています。生乳の需給構造に大きな変化が起こり、乳業技術の真価が問われることとなるでしょう。このような状況の中、御社が長年にわたり蓄積してきた技術力をもって、今後ますます飛躍されることを祈念しております。



関東生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長

菊池 一郎 様

[※]新酪肉近：
農林水産省が2015年3月に策定した新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」

持続可能な社会のために 消費者と共に 歩んでいってほしい

御社の企業倫理委員会消費者部会では、消費者市民社会実現のため企業と消費者との協働による取組みをさらに進展させることを提言しています。

消費者市民社会とは、「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会（消費者教育の推進に関する法律第2条2項）」をいいます。持続可能な社会を実現するには、地域をはじめ様々な場で、事業者、消費者など多様な関係者による行動・協働の必要性があります。

昨年度、9つの消費者団体と雪印メグミルクで行なった「消費期限・賞味期限の行動に関わるアンケート」や、牛乳に関するパンフレットを作成したことは、まさに持続可能な社会を形成するための協働の取組みとなりました。

昨年は、残念なことにミルクの異臭問題などもありましたが、受け入れ時検査の改善策などが速やかに示され、消費者部会メンバーも工場視察にて官能検査を体験し、日常的に厳しい評価が行なわれている事を知りました。

今後も消費者の声を傾聴し、安全で美味しい乳製品の提供を通して、持続可能な社会のために消費者と共に歩む雪印メグミルクグループであり続ける事を期待しています。



主婦連合会
会長

有田 芳子 様

真摯に行われている 消費者重視のCSR活動

2000年、2002年と相次いで発生した2つの事件は大きなインパクトがあり記憶に残っています。その後10年以上の歳月が流れ、新しく生まれ変わった雪印メグミルクグループにおいては事件を知らない社員も増えてきたものと思います。しかし同社グループは、事件を風化させないための取組みを継続的に実施してきました。その状況は日本経営倫理学会などで度々報告されており、極めて真摯な取組みに好感を持って拝聴して参りました。

同社グループの活動報告書の最大の特徴は、消費者重視のCSR活動を実施している点にあります。品質管理などの直接的な取組みは然ることながら、社外の目を経営の意思決定に反映させる仕組みを備えたガバナンス、食の安全を強く意識したコンプライアンス・リスクマネジメントの仕組みなど、全てが「食の責任」に帰結しています。これらは、事件後10年以上の取組みが形となって結実したものと思われ、高く評価できます。

さらに企業価値を高める活動報告書に昇華することを期待して、あえて提言をするならば、自然災害への対策の記述も加えてはいかがでしょうか。東日本大震災以降、事業継続計画(BCP)の策定・運用状況をCSRレポートなどで開示する企業が増えています。同社グループの製造拠点のほとんどが国内にあることから、発災が予測される東海・東南海および南海地震等を想定した対策をさらに進めてこれを開示し、どのような時でも製品を待っているお客様の期待に応えられる企業グループを目指されることを期待しています。

雪印メグミルクグループの消費者重視の真摯なCSR活動に敬意を表するとともに、活動報告書がさらなる企業価値の増進に寄与することを祈念しています。



関西大学 社会安全学部 副学部長・教授
日本経営倫理学会 理事、経営倫理実践研究センター 上席研究員

高野 一彦 様

「志」、 それは生きがいと働きがい、 そして貢献していくこと

4月に神戸工場に経営職として配属になり、製造現場を初めて経験しました。いつも同じ品質のものを維持続けることがいかに大変かを実感しました。当社は、赤ちゃんからお年寄りまで全世代にわたって必要な食品を製造しています。何よりも安全でおいしいものを造り続ける使命があります。多くの人に喜んで頂いている誇りを持って、製造・品質維持向上のために挑みたいと思っています。

一方、会社は毎日同じ商品を作っている、働く人は生きていく中で環境が常に変化していきます。出産・育児・介護など、全ての人何かしら係わります。いつか自分も・・・と思えば、お互い助け合えるのではないのでしょうか?会社の制度もフル活用して、あきらめず乗り越えてほしいと思います。また、会社の制度もそうあるべきだと思います。

女性だから、男性だからと区別するのではなく、自分だからできること、得意なことがあるはずです。それぞれの得意分野を見つけ出し、活かすことができれば、会社が発展・成長していけると思っています。私はそのような一人ひとりの能力が活きるお手伝いをしたいと思っています。

「あなたの志は何ですか?」今年のNHK大河ドラマで使われている台詞です。改めて考えると、社会人として生きがいを、会社人として働きがいを持ち、係わる皆様に少しでも何か貢献できたら最高だなと思いました。



雪印メグミルク株式会社
神戸工場 品質管理課長

高橋 千登勢 さん



未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク



この報告書は、適切に管理された森林から生まれた「FSC® 認証紙」を使用し、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物油インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷で印刷しています。また、本文用紙には「森の町内会」による間伐に寄与する紙を使用しています。

2015年6月発行